

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

福大病庶 第 143号  
令和 7年 10月 4日  
開設者名 学校法人 福岡大学  
理事長 貫 正 義

### 福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

#### 1 開設者の住所及び氏名

住所	〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
氏名	学校法人 福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

#### 2 名称

福岡大学病院
--------

#### 3 所在の場所

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
電話(092)801-1011

#### 4 診療科名

##### 4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

##### 4-2 標榜している診療科名

###### (1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
1呼吸器内科	2消化器内科
5神経内科	6血液内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科」欄と「内科と組み合わせた診療科名等」欄の記入を併記すること。

（注）「診療科」欄に○印を付けること。  
その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

（2）外科

外科							有
外科と組み合わせた診療科名							
<input type="radio"/>	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	<input type="radio"/>	6心臓血管外科		7内分泌外科	<input type="radio"/>	8小児外科
診療実績							

（注） 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

（3）その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/>	1精神科	<input type="radio"/>	2小児科	<input type="radio"/>	3整形外科	<input type="radio"/>	4脳神経外科
<input type="radio"/>	5皮膚科	<input type="radio"/>	6泌尿器科	<input type="radio"/>	7産婦人科		8産科
	9婦人科	<input type="radio"/>	10眼科	<input type="radio"/>	11耳鼻咽喉科	<input type="radio"/>	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	<input type="radio"/>	15麻酔科	<input type="radio"/>	16救急科

（注） 標榜している診療科名に○印を付けること。

（4）歯科

歯科							有
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	<input type="radio"/>	3歯科口腔外 科		
歯科の診療体制							

（注） 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

（5）（1）～（4）以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	呼吸器科	3	消化器科	4	循環器科	5	形成外科
6	美容外科	7	こう門科	8	リハビリテー ーション科	9	病理診断科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

（注） 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
----	-----	----	----	----	----

40	0	0	0	731	771	(単位:床)
----	---	---	---	-----	-----	--------

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	522	101	535.1
歯科医師	15	8	15.4
薬剤師	79	4	80.7
保健師	0	0	0
助産師	72	0	72
看護師	881	15	891.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	4	3	6.3
管理栄養士	11	9	19.5

職種	員数
看護補助者	66
理学療法士	23
作業療法士	8
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	23
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	50

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査技師	74	
臨床検査	衛生検査技師	0
その他	0	
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	6	
その他の技術員	45	
事務職員	193	
その他の職員	16	

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	54	眼科専門医	7
外科専門医	42	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	8	放射線科専門医	11
小児科専門医	20	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	21
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	7
産婦人科専門医	12	救急科専門医	13
		合計	230

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 三浦 伸一郎 ) 任命年月日 令和 5 年 12 月 1 日

2024.2.24 医療安全管理者養成講座終了証(第5425号)

令和元年12月1日～令和5年11月30日まで福岡大学西新病院長として、医療安全管理に関し医療安全管理責任者とともに統括し、適正な組織管理と体制に努めた。令和5年12月1日より福岡大学病院長として医療安全管理に関し医療安全管理責任者とともに統括している。また令和6年10月1日から医療安全管理部を病院長直轄の組織とし、適正な組織管理と体制整備に努めている。

## 9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計

1日当たり平均入院患者数	634.2 人	2.5 人	636.7 人
1日当たり平均外来患者数	1294.5 人	40.8 人	1335.3 人
1日当たり平均調剤数		995.1	剤
必要医師数		142	人
必要歯科医師数		4	人
必要薬剤師数		34	人
必要(准)看護師数		362	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

## 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	652.26 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	28 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]		床面積	64.46 m <sup>2</sup>	病床数	2 床
	[移動式の場合]		台数	8 台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]		床面積	159.85 m <sup>2</sup>		
	[共用室の場合]		共用する室名	薬務・資材エリア		
化学検査室	488.86 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	生化子自動分析装置、生化子発光免疫測定装置、エンドトキシン測定装置		
細菌検査室	135.13 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	自動遠伝子検査装置、嫌気ワーカステーション、システム生物顕微鏡		
病理検査室	200.49 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	局所排気装置付切出台、新型臓器撮影装置、システム生物顕微鏡		
病理解剖室	132.80 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	電動昇降式解剖台、大型吸引器、骨切断機用骨固定架台		
研究室	5449.16 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	デスクトップパソコン、リアルタイムPCR解析システム		
講義室	372.90 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	室数	2 室	収容定員	370 人
図書室	2246.16 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	室数	3 室	蔵書数	264972 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	93 . 6 %	逆紹介率	79 . 1 %
算出 根拠	A:紹介患者の数		16,167 人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,022 人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		1,612 人
	D:初診の患者の数		18,987 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
横山 晋二	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する 識見を有する者	無	1
早川 晴美	〃		〃	無	1
堤 一貴	〃		〃	無	1
和田 秀一	福岡大学病院		院内監査委員	有	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者そのほかの医療 従事者以外の者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
福岡大学病院ホームページに掲載	

## 高度の医療の提供の実績

## 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数(人)
該当なし	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	該当なし
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	62 甲状腺ホルモン不応症	1
2	筋萎縮性側索硬化症	6	63 先天性副腎皮質酵素欠損症	6
3	脊髄性筋萎縮症	3	64 先天性副腎低形成症	1
4	原発性側索硬化症	1	65 サルコイドーシス	35
5	進行性核上性麻痺	9	66 特発性間質性肺炎	113
6	パーキンソン病	272	67 肺動脈性肺高血圧症	13
7	大脳皮質基底核変性症	4	68 慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
8	神経有棘赤血球症	2	69 リンパ脈管筋腫症	18
9	シャルコー・マリー・トゥース病	2	70 網膜色素変性症	10
10	重症筋無力症	87	71 原発性胆汁性胆管炎	40
11	多発性硬化症／視神経脊髄炎	58	72 原発性硬化性胆管炎	5
12	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	14	73 自己免疫性肝炎	12
13	封入体筋炎	3	74 クローン病	238
14	多系統萎縮症	13	75 潰瘍性大腸炎	348
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	36	76 好酸球性消化管疾患	2
16	ライソゾーム病	18	77 慢性特発性偽性腸閉塞症	1
17	副腎白質ジストロフィー	1	78 若年性特発性関節炎	1
18	ミトコンドリア病	7	79 非典型溶血性尿毒症症候群	1
19	もやもや病	53	80 筋ジストロフィー	3
20	HTLV-1関連脊髄症	13	81 脊髄空洞症	2
21	特発性基底核石灰化症	1	82 アイザックス症候群	1
22	全身性アミロイドーシス	34	83 遺伝性ジストニア	1
23	遠位型ミオパチー	2	84 脳表ヘモジデリン沈着症	1
24	神経線維腫症	42	85 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
25	天疱瘡	8	86 前頭側頭葉変性症	6
26	膿疱性乾癬(汎発型)	22	87 先天性無痛無汗症	1
27	高安動脈炎	9	88 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
28	巨細胞性動脈炎	6	89 レノックス・ガストー症候群	2
29	結節性多発動脈炎	4	90 ウエスト症候群	1
30	顕微鏡的多発血管炎	15	91 レット症候群	1
31	多発血管炎性肉芽腫症	4	92 スタージ・ウェーバー症候群	1
32	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	21	93 結節性硬化症	6
33	悪性関節リウマチ	6	94 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
34	バージャー病	4	95 特発性後天性全身性無汗症	3
35	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	96 マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	9
36	全身性エリテマトーデス	129	97 エーラス・ダンロス症候群	1
37	皮膚筋炎／多発性筋炎	57	98 ウィルソン病	4
38	全身性強皮症	42	99 抗糸球体基底膜腎炎	1
39	混合性結合組織病	16	100 一次性ネフローゼ症候群	29
40	シェーグレン症候群	16	101 紫斑病性腎炎	3
41	成人発症スチル病	11	102 間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
42	再発性多発軟骨炎	6	103 オスラー病	1
43	ペーチェット病	31	104 閉塞性細気管支炎	1
44	特発性拡張型心筋症	26	105 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	5
45	肥大型心筋症	4	106 $\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	2
46	再生不良性貧血	7	107 偽性副甲状腺機能低下症	2
47	自己免疫性溶血性貧血	2	108 副腎皮質刺激ホルモン不応症	1
48	免疫性血小板減少症	27	109 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	6
49	原発性免疫不全症候群	4	110 プロピオン酸血症	1
50	IgA腎症	60	111 尿素サイクル異常症	1
51	多発性囊胞腎	26	112 原発性高カリヨミクロン血症	1
52	黄色靭帯骨化症	4	113 慢性再発性多発性骨髄炎	1
53	後縦靭帯骨化症	41	114 強直性脊椎炎	3
54	広範脊柱管狭窄症	9	115 骨形成不全症	1
55	特発性大腿骨頭壊死症	57	116 クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	2
56	下垂体性ADH分泌異常症	10	117 後天性赤芽球病	2
57	下垂体性PRL分泌亢進症	7	118 囊胞性線維症	1
58	クッシング病	3	119 IgG4関連疾患	2
59	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	3	120 好酸球性副鼻腔炎	20
60	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	17	121 特発性多中心性キャッスルマン病	3
61	下垂体前葉機能低下症	81		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	121
合計患者数(人)	2,480

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療	・重症患者初期支援充実加算
・医療情報取得加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・医療DX推進体制整備加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1 入院基本料) (入院栄養管理体制加算)	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1 入院基本料)	・総合評価加算
・臨床研修病院入院診療加算	・術後疼痛管理チーム加算
・救急医療管理加算	・後発医薬品使用体制加算1
・超急性期脳卒中加算	・バイオ後続品使用体制加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算1(薬剤業務向上加算)
・診療録管理体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算1(20対1) <small>(夜間100対1急性期看護補助体制加算) (看護補助体制基本加算)</small>	・データ提出加算2  ・入退院支援加算1、3(地域連携診療計画加算、入院時支援加算、総合機能評価加算)
・看護職員夜間12対1配置加算1	・医療的ケア児(者)入院前支援加算
・看護補助加算2(50対1)(看護補助体制充実加算)	・認知症ケア加算1
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1	・精神科急性期医師配置加算
・無菌治療室管理加算2	・排尿自立支援加算
・緩和ケア診療加算	・地域医療体制確保加算
・精神科身体合併症管理加算	・救命救急入院料1(救急体制充実加算2、早期離床・リハビリテーション加算、小児加算あり)
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料2(小児加算あり) (算定上限日数に関する基準、早期栄養介入管理加算、早期離床・リハビリテーション加算)
・摂食障害入院医療管理加算	・特定集中治療室管理料1(小児加算、早期離床・リハビリテーション加算)
・がん診療連携拠点病院加算	・特定集中治療室管理料1(小児加算、早期離床・リハビリテーション加算あり) <small>(算定上限日数に関する基準、早期栄養介入管理加算)</small>
・栄養サポートチーム加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料(早期栄養介入管理加算)
・医療安全対策加算1	・新生児集中治療室管理料(成育連携支援加算)、(新生児集中治療室管理料)
・感染対策向上加算1(指導強化加算)(抗菌薬適正使用体制加算)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・患者サポート体制充実加算	・小児入院医療管理料1(注2プレイルーム加算あり) (養育支援体制加算、時間外受入体制強化加算1、看護補助体制充実加算)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料 注3(がん専門管理栄養士が栄養指導を行う場合)	・ニコチン依存症管理料
・植込型除細動器移行期加算(※心臓ペースメーカー指導管理料の加算)	・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
・遠隔モニタリング加算(※注5 心臓ペースメーカー指導管理料の加算)	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・高度難聴指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・糖尿病合併症管理料	・がん治療連携計画策定料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・がん治療連携管理料
・難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・認知症専門診断管理料
・がん患者指導料イ	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導料ロ	・外来排尿自立指導料
・がん患者指導料ハ	・プログラム医療機器等指導管理料(高血圧症治療補助アプリを用いる場合)
・がん患者指導料ニ	・薬剤管理指導料
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料1
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料2
・糖尿病透析予防指導管理料	・救急患者連携搬送料
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物住居者訪問看護・指導料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅血液透析指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
・腎代替療法指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・二次性骨折予防継続管理料1	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・二次性骨折予防継続管理料3	・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・下肢創傷処置管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・外来放射線照射診療料	・骨髓微小残存病変量測定
・外来腫瘍化学療法診療料1	・造血器腫瘍遺伝子検査
・外来腫瘍化学療法診療料1(連携充実加算)	・遺伝学的検査
・外来腫瘍化学療法診療料1(がん薬物療法体制充実加算)	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・BRCA1／2遺伝子検査	・内服・点滴誘発試験
・がんゲノムプロファイリング検査	・CT透視下気管支鏡検査加算
・先天性代謝異常症検査	・経気管支凍結生検法
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・経頸静脈的肝生検
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ポジトロン断層撮影
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合(イ以外の場合)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・検体検査管理加算(IV)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合(イ以外の場合)
・国際標準検査管理加算	・冠動脈CT撮影加算
・遺伝カウンセリング加算	・外傷全身CT加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・心臓MRI撮影加算
・植込型心電図検査	・CT撮影及びMRI撮影
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・肝エラストグラフィ加算
・胎児心エコー法	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・ヘッドアップティルト試験	・乳房MRI撮影加算
・人工臍臓検査、人工臍臓療法	・小児鎮静下MRI撮影加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・頭部MRI撮影加算
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・大腸CT撮影加算
・終夜睡眠ポリグラフィー(1及び2以外の場合 安全精度管理下で行うもの)	・画像診断管理加算4
・脳波検査判断料1	・遠隔画像診断
・単線維筋電図	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・神経学的検査	・無菌製剤処理料
・補聴器適合検査	・外来化学療法加算1
・ロービジョン検査判断料	・連携充実加算
・コンタクトレンズ検査料1	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
・小児食物アレルギー負荷検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】	・心不全に対する遠赤外線温熱療法
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】	・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】	・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算
・運動器リハビリテーション料(Ⅱ)【同基準Ⅰの届出をもって代えることができる】	・自家脂肪注入
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】	・組織拡張器による再建術(乳房(再建時手術)の場合に限る。)
・がん患者リハビリテーション料(Ⅰ)	・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
・リンパ浮腫複合的治療料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・救急患者精神科継続支援料	・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)
・認知療法・認知行動療法1	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・精神科作業療法	・椎間板内酵素注入療法
・精神科ショート・ケア「大規模なもの」	・緊急穿頭血腫除去術
・精神科デイ・ケア「大規模なもの」	・内視鏡的下脳腫瘍生検
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料)	・内視鏡的下脳腫瘍摘出術
・医療保護入院等診療料	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・多血小板血漿処置	・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・硬膜外自家血注入	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・導入期加算3	・角膜移植術・内皮移植加算
・透析液水質確保加算	・羊膜移植術(学会認定施設書の提出の必要性)
・慢性維持透析濾過加算	・緑内障手術(流出路再建術) イ眼内法 ロその他のもの
・LDLアフェレシス療法における血漿交換療法	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・移植後抗体関連拒絶反応における血漿交換療法	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・ストーマ合併症加算	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・一酸化窒素吸入療法	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・網膜再建術	・生体部分肺移植術
・植込型骨補聴器(直接振動型)植込術	・肺悪性悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・耳管用補綴材挿入術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎孟)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・人工中耳植込術	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・内視鏡下筋層切開術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・経皮的冠動脈形成術
・経鼻内視鏡下副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・経皮的冠動脈ステント留置術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	・胸腔鏡下弁形成術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	・胸腔鏡下弁置換術
・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対するもの)	・経カテーテル弁置換術
・乳癌悪性腫瘍子宮(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・経皮的僧帽弁クリップ術
・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下に伴うもの)
・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・気管支バルブ留置術	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・胸腔鏡下肺切除手術(区域切除)(肺葉切除又は1肺葉を超えるもの)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いる場合)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いる場合)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・同種死体肺移植術	・経皮的大動脈遮断術

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・経皮的下肢動脈形成術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ダメージコントロール手術	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)
・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)	・腹腔鏡下腎孟形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・生体腎移植術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・膀胱水圧拡張術、ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)
・腹腔鏡下胆囊悪性腫瘍手術(胆囊床切除術を伴うもの)	・尿道狭窄グラフト再建術
・胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除 及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・埋没陰茎手術
・体外衝撃波胆石破碎術	・精巣温存手術
・腹腔鏡下肝切除術	・陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術支援機器を用いるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・体外衝撃波脾石破碎術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術	・腹腔鏡下腎断端挙上術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・同種死体脾島移植術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術支援機器を用いるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣症候群患者に対するもの)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胎児輸血術
・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・臍帶穿刺

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・体外式膜型人工肺管理料	・入院ベースアップ評価料(85)
・輸血管理料(Ⅰ)	・看護職員処遇改善評価料(64)
・貯血式自己輸血管理体制加算(※輸血管理料の加算)	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・歯科診療特別対応連携加算
・同種クリオプレシピテート作製術	・歯科外来診療医療安全対策加算2
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・歯科外来診療感染対策加算4
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する子宮付属器腫瘍摘出術)	・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理課加算 及び歯科治療時医療管理料 ・医療機器安全管理料(歯科)
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する乳房切除術)	・口腔細菌定量検査
・麻酔管理料(Ⅰ)	・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査
・麻酔管理料(Ⅱ)	・精密触覚機能検査
・麻酔管理料 周術期薬剤管理加算	・睡眠時歯科筋電図検査
・放射線治療専任加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・外来放射線治療加算	・歯周組織再生誘導手術
・体外照射呼吸性移動対策加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・高エネルギー放射線治療	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)	・歯科技工士連携加算1
・強度変調放射線治療(IMRT)	・CAD/CAM冠
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)	・
・病理診断管理加算(2)	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

## 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 消化器内科・脳神経内科・消化器外科・乳腺外科・放射線科、歯科口腔外科との病理臨床カンファレンスに加え、病理解剖後の臨床病理カンファレンスを併せ、年間約60回行っております。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度		
割 檢 の 状 況	剖検症例数(例)	11
	剖検率(%)	5.5

1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で選ぶ等)。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腸内細菌から動脈硬化を予測する:AIを用いた挑戦	有馬 久富	衛生・公衆衛生学	1,430,000	補委 日本学術振興会
非侵襲連続血圧計による心筋酸素消費量指標開発と最適な運動処方アルゴリズムの実用化	末松 保憲	循環器内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	有馬 久富	衛生・公衆衛生学	4,160,000	補委 日本学術振興会
大動脈瘤の予防薬開発を目指した新規分子機序の解明	桑野 孝志	循環器内科	910,000	補委 日本学術振興会
抗がん剤の心毒性に対するbeta-arrestin-biased orthosteric ligandsの有用性	三浦 伸一郎	循環器内科	1,560,000	補委 日本学術振興会
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」診断基準・治療指針改訂プロジェクト	平井 郁仁	消化器内科	200,000	補委 厚生労働省
クローム病の活動性に関連する要因分析と寛解維持への睡眠障害改善効果の検証	平井 郁仁	消化器内科	100,000	補委 文部科学省
クローム病の活動性に関連する要因分析と寛解維持への睡眠障害改善効果の検証	芦塚 伸也	消化器内科	100,000	補委 文部科学省
インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならびに診断法確立	平井 郁仁	消化器内科	325,000	補委 日本医療研究開発機構
炎症性腸疾患におけるアドレノメデュリンの病態意義の会名と予後予測因子としての応用	芦塚 伸也	消化器内科	400,000	補委 文部科学省
内視鏡下で留置した胆管ステントの逸脱現象の力学的解明と逸脱防止策の提案	石田 祐介	消化器内科 (内視鏡部)	100,000	補委 文部科学省
液性免疫解析による免疫チェックポイント阻害剤の新規治療効果予測因子の探索研究	井上 博之	呼吸器内科	4,680,000	補委 独立行政法人
間質性肺炎の原因と治療法	濱田 直樹	呼吸器内科	10,000,000	補委 公益財団法人
空間トランスクリプトミクスが切り拓く間質性肺炎の病態理解と新規治療戦略	柳原 豊史	呼吸器内科	1,800,000	補委 公益財団法人
血管リモデリングに着目した肺線維症の新たな治療戦略の構築	柳原 豊史	呼吸器内科	2,000,000	補委 公益財団法人
血管リモデリングを標的とした間質性肺炎の新規治療法開発	柳原 豊史	呼吸器内科	2,000,000	補委 一般社団法人
不眠症と睡眠時無呼吸症候群から動脈硬化・CKD予防を科学する	吉村 力	呼吸器内科	2,210,000円	補委 独立行政法人
動脈硬化、心血管病、CKDに及ぼす不眠症、睡眠時無呼吸症候群の解明	吉村 力	呼吸器内科	520,000円	補委 独立行政法人
一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	吉村 力	呼吸器内科	650,000円	補委 独立行政法人
心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	吉村 力	呼吸器内科	4,160,000円	補委 独立行政法人
腸内細菌から動脈硬化を予測する:AIを用いた挑戦	吉村 力	呼吸器内科	1,430,000円	補委 独立行政法人
神経疾患における睡眠時ブラキシズムと睡眠障害に関する研究	吉村 力	呼吸器内科	650,000円	補委 独立行政法人

一般住民における過活動膀胱、夜間頻尿と動脈硬化の機序解明	吉村 力	呼吸器内科	650,000円	補委	独立行政法人
病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与する腸内細菌叢異常を解明する	吉村 力	呼吸器内科	1,430,000円	補委	独立行政法人
デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管理に関する指針の研究開発	吉村 力	呼吸器内科	14,105,000円	補委	国立研究開発法人
オミクスと長期評価による適切なゴールを目指す気分障害の革新的治療の基盤構築	堀 輝	精神神経科	50,000	補委	科研費基盤研究(C)
認知症徘徊者検知システムの実証実験と介護者の介護負担度への影響	堀 輝	精神神経科	10,000	補委	科研費基盤研究(C)
交替勤務うつ病労働者の復職に関する多面的研究	堀 輝	精神神経科	1,800,000	補委	科研費基盤研究(C)
緊張病の分子生物学的病態解明を目指した横断/縦断研究	堀 輝	精神神経科	85,000	補委	科研費基盤研究(C)
統合失調症の診断補助医療機器プログラムの開発研究	堀 輝	精神神経科	1,300,000	補委	AMED
統合失調症に対する併用薬治療行動の向上の検証	堀 輝	精神神経科	390,000	補委	AMED
双極性障害エピゲノムマーカーと薬剤反応性についての検討	菅原 裕子	精神神経科	1,300,000	補委	科研費基盤研究(C)
自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業	衛藤 暢明	精神神経科	2,307,000	補委	厚生労働省
自殺念慮をもつ身体疾患のある在宅療養者に対する訪問看護実践ガイドラインの開発	衛藤 暢明	精神神経科	182,000	補委	科研費基盤研究(C)
自殺関連行動後の患者に対する精神科デイケアの効果についての検討	吉村 裕太	精神神経科	700,000	補委	臨床研究奨励基金
救急医療機関に搬送された自殺企図患者の血液を用いた市販薬の使用実態に関する調査	増田 将人	精神神経科	500,000	補委	臨床研究奨励基金
気分障害における社会認知機能障害の生物学的基礎ならびにVR(virtual reality)を用いた介入の有効性の検討	熊谷 浩紀	精神神経科	500,000	補委	臨床研究奨励基金
こどもの健やかな成長・発達のためのバイオサイコソーシャルの観点(身体的・精神的・社会的な観点)からの切れ目のない支援の推進のための研究	永光 信一郎	小児科	21,451,024	補委	こども家庭庁
ギガスクールを活用した子どものメンタルヘルス支援—教育・医療連携アプリの開発—	永光 信一郎	小児科	1,319,636	補委	独立行政法人日本学術振興会
登校予防の教育・医学連携学校健診の実装へ思春期心身症診療支援システム構築	永光 信一郎(分担)	小児科	50,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
思春期のメンタルヘルス診断・予防的支援としてのICTを活用した「こころの学校健診」開発研究	永光 信一郎(分担)	小児科	100,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成育医療等基本方針に基づいた指標・施策の中間評価、およびモニタリングに関する研究	永光 信一郎(分担)	小児科	300,000	補委	こども家庭庁
母子保健情報のデジタル化とデータの利活用を推進するための研究	永光 信一郎(分担)	小児科	200,000	補委	こども家庭庁
ミトコンドリア病の診療水準やQOL向上を目指した調査研究	ハツ賀 秀一(分担)	小児科	500,000	補委	厚生労働省
新規リコンビナント免疫グロブリン製剤の開発と臨床応用を目指す研究 科学研究費助成事業	吉兼 由佳子	小児科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新生児ウレアプラズマ感染症の病態解析と治療戦略の確立	伊東 和俊	小児科	1,900,000	補委	日本学術振興会

希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	小幡 聰	呼吸器・乳腺・小児外科	200,000	補委	厚生労働省(分担)
力覚フィードバック機能を有する革新的手術支援ロボットの研究開発	上田 雄一郎	呼吸器・乳腺・小児外科	180,000	補委	文部科学省
肺癌における肺胞腔内腫瘍散布像(STAS)のin vitroモデル作成およびその機序の解明	中島 裕康	呼吸器・乳腺・小児外科	1,100,000	補委	文部科学省
MRIの多段面再構成像を用いたC5麻痺発生メカニズムの解明	柴田 達也	整形外科学	3,770,000	補委	日本学術振興会
変形性膝関節症手術における神経麻痺の発生メカニズム解明と予防法の開発	石松 哲郎	整形外科学	4,550,000	補委	日本学術振興会
特発性大腿骨頭壊死症の確定診断と重症度判定の向上に資する大規模他施設研究	山本 卓明	整形外科学	100,000	補委	厚生労働省
有限要素法を用いた特発性膝骨壊死における軟骨下骨折の発生メカニズムの解明	土肥 憲一郎	整形外科学	1,700,000	補委	日本学術振興会
腱板断裂の血流は腱板修復後の鍵の癒合度に影響を与えるか?	柴田 光史	整形外科学	3,600,000	補委	日本学術振興会
病態解析に基づいた軟骨下脆弱背聖骨折の治療法構築と予防法開発	山本 卓明	整形外科学	4,550,000	補委	日本学術振興会
計算論モデルと脳神経画像解析によるトウレット症重症化機序の解明	森下 登史	脳神経外科	1,100,000	補委	文部科学省
軟性鏡下脳室内手術における新規吸引デバイスの開発	山城 慧	脳神経外科	1,170,000	補委	文部科学省
軟性鏡下脳室内手術における新規吸引デバイスの開発	山城 慧	脳神経外科	1,000,000	補委	福岡大学
医用画像編集ソフトを用いた低侵襲頭蓋底開頭法および新規解剖学的検討法の開発	山城 慧	脳神経外科	500,000	補委	臨床研究奨励基金
神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者QOL向上のための研究	今福 信一	皮膚科	1,460,000	補委	厚生労働省
低活動膀胱に対するmiRNAを用いた革新的低侵襲診断法の確立	羽賀 宣博	腎泌尿器外科	1,000,000	補委	日本学術振興会
一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	中村 信之	腎泌尿器外科	500,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌に対する高精度神経温存手術手技の開発	羽賀 宣博	腎泌尿器外科	500,000	補委	公財)山口内分泌疾患研究振興財団
マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の神経発達障害に関わる分子の同定	漆山 大知	産婦人科	3,500,000	補委	文部科学省
マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の予後不良因子の同定	漆山 大知	産婦人科	2,000,000	補委	福岡大学若手・女性研究基盤構築支援事業
マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の予後不良因子の同定と治療法の開発	漆山 大知	産婦人科	1,600,000	補委	公益財団法人柿原科学技術研究財団
抗酸化作用を示すガソトランスマッター・ウルトラファインバブルを用いた再生幹細胞培養液の開発	平川 豊文	産婦人科	1,600,000	補委	公益財団法人柿原科学技術研究財団
エクソソーム医療材による新たな体外受精液および凍結保存液の開発	平川 豊文	産婦人科	2,000,000	補委	公益財団法人柿原科学技術研究財団
アデノウイルス眼感染症の細胞生物学的解析と治療薬剤開発の研究	内尾 英一	眼科	1,000,000	補委	文部科学省

眼科領域の新型アデノウイルス治療薬剤候補の型別有用性の基礎的および臨床的評価	川村 朋子	眼科	1,200,000	補委	文部科学省
聴き取りづらい音韻の個人差に対応する新たな補聴方式の開発	坂田 俊文	耳鼻咽喉科学	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病性腎臓病におけるリン代謝とRho-kinaseの意義	川浪 大治	内分泌・糖尿病内科	1,300,000円	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎症保護因子PKM2に着目した残存病態の解明と新規治療法の開発	横溝 久	内分泌・糖尿病内科	1,560,000円	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病患者の健康寿命の延伸を目指した生体のリン感知機構の解明	高士 祐一	内分泌・糖尿病内科	710,000円	補委	日本学術振興会
消化器がんに対する免疫チェックポイント阻害剤治療の腫瘍免疫学的評価とその意義	山田 哲平	消化器外科	800,000	補委	文部科学省
重症感染症の重篤化と口腔-腸連関の関連性解明	吉野 綾	歯科口腔外科	1,300,000	補委	文部科学省基盤研究C
動脈硬化性疾患の代謝調整栄養因子、分枝鎖アミノ酸による口腔-腸連関制御機構の解明	近藤 誠二	歯科口腔外科	900,000	補委	文部科学省基盤研究C
人工呼吸器関連肺炎続発患者における口腔-腸内細菌叢相関の集中治療施設間比較	眞野 亮介	歯科口腔外科	800,000	補委	文部科学省基盤研究C
トロンボモジュリン製剤を用いた新たな脳便塞治療戦略の検証	仲村佳彦	救命救急センター	300,000円	補委	日本学術振興会
新規評価システム搭載型高度手術シミュレーター開発と効果検証に関する研究	小幡 聰	総合周産期母子医療センター	520,000円	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金)
高感度CRPと冠動脈石灰化との関連を解明する疫学研究	加藤 穎史	総合診療部	1,100,000円	補委	文部科学省
自家臍島移植の臨床試験の申請承認と実施	小玉 正太	再生医療センター	5,000,000	補委	国立国際医療研究センター(AMED再委託)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計13件

総計82件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Shiho Hashiguchi, Ryosuke Kita, Aya Yoshino, et al.	歯科口腔外科	Primary intraosseous squamous cell carcinoma with pagetoid spread arising in periapical odontogenic epithelium of the maxilla	Med Mol Morphol [10.1007/s00795-024-00418-8, 2024], 2024 Epub 2025 Jan 10.	Original Article
2	Maruta G, Maeoka H, Tsunoda T, et al.	麻酔科	RAD52-mediated repair of DNA double-stranded breaks at inactive centromeres leads to subsequent apoptotic cell death.	Nucleic Acids Res. 2024 Nov 27;52(21):12961-12975. Published: 03 October 2024	Original Article
3	Yanagihara T, Hata K, Matsubara K, et al.	呼吸器内科	Exploratory mass cytometry analysis reveals immunophenotypes of cancer treatment-related pneumonitis.	Elife. 2024 Apr 12;12: RP87288	Original Article
4	Ebi N, Inoue H, Igata F, et al.	呼吸器内科	Clinical Association Between Immune-related Adverse Events and Treatment Efficacy in Patients With Non-small-cell Lung Cancer Treated With Nivolumab-Ipilimumab-based Therapy.	Anticancer Res. 2024 Jul; 44(7): 3087-3095.	Original Article
5	Ebi N, Inoue H, Fujimoto Y, et al.	呼吸器内科	Impact of docetaxel plus ramucirumab therapy on interstitial lung disease in recurrent advanced non-small cell lung cancer patients.	Transl Lung Cancer Res. 2024 Oct 31;13(10): 2573-2584.	Original Article
6	Yanagihara T., Hata K., Matsubara K., et al.	呼吸器内科	Immunophenotyping of T-cells in lung malignancies and cryptogenic organizing pneumonia.	J Clin Med. 2025 Jan 7; 14(2): 316.	Original Article
7	Inoue H, Hamasaki T, Inoue K, et al.	呼吸器内科	Comprehensive immunophenotyping reveals distinct tumor microenvironment alterations in anti-PD-1 sensitive and resistant syngeneic mouse model.	Sci Rep. 2025 Mar 10; 15(1): 8311.	Original Article
8	Chen M, Kawashita Y, Abe S, et al.	呼吸器内科	Spontaneous Resolution of Abdominal Pseudohernia Following Lung Cancer Surgery: A Case Report	Cureus. 2024 Jul 10; 16(7): e64250.	Case report
9	Yanagihara T, Igata F, Fujita M.	呼吸器内科	Successful Treatment of Refractory Asthma Clinically Diagnosed As Eosinophilic Granulomatosis With Polyangiitis in a Hairdresser Using Tezepelumab.	Cureus. 2024 Sep 3; 16(9): e68570.	Case report
10	Ikeda T., Yanagihara T., Chen M. et al.	呼吸器内科	Invasive tracheobronchial aspergillosis: a fatal complication in a patient with treated mediastinal lung adenocarcinoma.	Cureus. 2024 Sep 23; 16(9): e70024.	Case report

11	Kushima N, Yanagihara T, Ikeda T, et al.	呼吸器内科	Candida Epiglottitis in a Patient Undergoing Chemotherapy for Small Cell Lung Cancer: A Case Report.	Cureus. 2024 Oct 29; 16(10): e72607.	Case report	小計11件
12	Kushima N, Himeji D, Yanagihara T, et al.	呼吸器内科	Tracheal Pleomorphic Adenoma With Severe Airway Obstruction	Cureus. 2024 Dec 24; 16(12): e76341.	Case report	
13	Chen M., Yanagihara T., Kushima N., et al.	呼吸器内科	Successful treatment of refractory <i>Mycobacterium avium</i> complex pulmonary disease with sitafloxacin after failed amikacin liposome inhalation suspension therapy.: A Case Report	Cureus. 2025 Jan 18; 17(1): e77645.	Case report	
14	Kushima N., Yanagihara T., Himuro N. et al.	呼吸器内科	Early diagnosis of relapsing polychondritis with airway involvement: A case report.	Cureus. 2025 Mar 24; 17(3): e81101.	Case report	
15	Reijiyo Kato, Yuhei Irie, Yoshito Izutani, et al	救命救急センター	Successful transition from intravenous to inhalation anesthesia for respiratory management of coronavirus disease pneumonia: A case report	Acute Medicine & Surgery 2024;11:e70010. DOI: 10.1002/ams2.70010, 2024 eCollection 2024 Jan-Dec.	Case report	
16	Shinichi Morimoto, Mituhiro Kamada , Yuuka Motomura,et al.	救命救急センター	Adult severe community-acquired pneumonia with bloodstream infection caused by $\phi$ USA 300: A case report	Diagnostic Microbiology & Infectious Disease Available online 26 November 2024 DOI:/10.1016/j.diagmicrobio.2024.116630	Case report	
17	Hiroto Iyota, Yasumasa Kawano, Hironori Fukumoto, et al.	救命救急センター	Management of eight cases of subarachnoid hemorrhage using transpulmonary thermodilution during clazosentan therapy	Interdisciplinary Neurosurgery doi.org/10.1016/j.inat.2025.101997 March 2025	Case report	
18	Ikeda A, Shimokawa A, Harada K,et al.	眼科	Computer modelling study of volume kinetics in intraocular segments following airbag impact using finite element analysis	Clin Ophthalmol 18, 2575-2582, 2024 Published 7 September 2024 Volume 2024:18 Pages 2575-2582	Original Article	
19	Shimokawa A, Ikeda A, Harada K,et al	眼科	Long-term observation of prognostic factors and clinical outcome of vernal keratoconjunctivitis in childhood	Clin Ophthalmol 18, 2339-2347, 2024 Aug	Original Article	
20	Yamano T, Kimura S, Wada K,et al.	福岡歯科大学病院	Effectiveness of Outpatient Treatment in Ear,Nose, and Throat Clinics for Dysphagia and the Role of Questionnaires.	Cureus DOI:10.7759/cureus.66369 2024 eCollection 2024 Aug.	Original Article	
21	Yamano T, Tanaka T, Kimura S, et al.	福岡歯科大学病院	Pharyngeal Complications Following Two-Jaw Surgery	Cureus 16(12):e76539 2024 eCollection 2024 Dec.	Original Article	
22	Matsuzaki K, Fukushima N, Saito C, et al.	西新病院 栄養部	Lifestyle Habits of Patients with Acute Myocardial Infarction and Specificity by Age Group	Int Heart J 2024年11月 ;65(6):969-977	Original Article	

23	Inada Y, Suematsu Y, Matsuda T, et al.	循環器内科 (部外修練)	Effect of Left Ventricular Diastolic Dysfunction on the Cardiopulmonary Exercise Test in Patients With Cardiovascular Disease	Am J Cardiol 2024年7月 ;222:157-164	Original Article
24	Komaki T, Mohri N, Ideishi A, et al.	循環器内科	Does Sinus Rhythm Restoration in Patients With Atrial Fibrillation Undergoing Pulmonary Vein Isolation Have Acute Hemodynamic Benefits?	Cardiol Res 2024年8月 ;15(4):298-308	Original Article
25	Suematsu Y, Morita H, Abe M, et al.	循環器内科	Differences in the effects of exercise on blood pressure depending on the physical condition of the subject and the type of exercise: a systematic review and meta- analysis	Hypertens Res 2025年2月 ;48(2):720-732	Original Article
26	Miura-Takahashi E, Tsudome R, Suematsu Y, et al.	薬剤部	An elevated level of soluble suppression of tumorigenicity 2, but not galectin-3, is associated with the presence of coronary artery disease in hypertensive patients	Hypertens Res 2025年2月 ;48(2):650-661	Original Article
27	Miura-Takahashi E, Tashiro K, Shiga Y, et al.	薬剤部	Considering the Possible Role of Pharmacists According to the Presence or Absence of Lifestyle-Related Diseases at the Time of Coronary CT Examination and Trends of Medication Use for These Diseases by Medical Doctors	Pharmacy (Basel) 2024年6月 ;12(4):99	Original Article
28	Hirata T, Shiga Y, Tashiro K, et al.	循環器内科	An investigation of the association between atrial fibrillation and the liver fibrosis-4 index in patients who underwent coronary computed tomography angiography	Hypertens Res 2025年2月 ;48(2):640-649	Original Article
29	Miura-Takahashi E, Tashiro K, Shiga Y, et al.	薬剤部	Association between pre- treatment with statin and its inhibitory effect on the onset of coronary artery disease at the time of coronary computed tomography angiography: a new look at an old medication	Heart Vessels 2024年10月 ;39(10):845- 856	Original Article
30	Tachibana T, Shiga Y, Tashiro K, et al.	循環器内科	Association Between Major Adverse Cardiovascular Events and Left Ventricular Mass Index in Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography: From the FU- CCTA Registry	Cardiol Res 2024年6月 ;15(3):134-143	Original Article
31	Yano Y, Suematsu Y, Matsuda T, et al.	循環器内科	Usefulness of the cardiopulmonary exercise test up to the anaerobic threshold for patients aged $\geq$ 80 years with cardiovascular disease on cardiac rehabilitation	J Rehabil Med 2024年6月 ;56:jrm19453	Original Article

小計13件

32	Morita H, Abe M, Suematsu Y, et al.	循環器内科	Resistance exercise has an antihypertensive effect comparable to that of aerobic exercise in hypertensive patients: a meta-analysis of randomized controlled trials	Hypertens Res 2025年2月 ;48(2):733-743	Original Article
33	Maruo T, Ike A, Takamiya Y, et al.	筑紫病院 循環器内科	Impact of Controlling Serum Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Triglycerides on Long-Term Clinical Outcomes in Diabetic Patients Who Have Undergone Percutaneous Coronary Intervention	Circ Rep 2024年11月 ;6(12):573-58	Original Article
34	Kato Y, Kawahira Y, Miyazaki M, et al.	循環器内科	What Is the Optimal Antithrombotic Therapy for Valsalva Thrombus Following Transcatheter Aortic Valve Replacement?	JACC Case Rep 2024年8月 ;29(16):102455	Case report
35	Komaki T, Ueno Y, Mohri N, et al.	循環器内科	The Mechanism and Management of Pneumopericardium Caused by Right Ventricular Lead Perforation	Cardiol Res 2024年12月 ;15(6):472-476	Case report
36	Niimi T, Tanaka T, Aoyagi C, et al.	小児科	Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells	Scientific reports 14(1); 18804,2024 Published: 13 August 2024	Original Article
37	Suzuki Y, Nagamitsu S, Eshima N, et al.	小児科	Body weight and eating attitudes influence improvement of depressive symptoms in children and pre-adolescents with eating disorders: a prospective multicenter cohort study	BMC Pediatrics 2024 Aug 27;24(1); 551,2024	Original Article
38	Sakemi S, Fujita T, Kaku N, et al.	小児科	Acute liver failure worsened after respiratory syncytial virus infection in an infant with spinal muscular atrophy type I after receiving onasemnogene abeparvovec.	Brain and Development Case Reports 2(3); 100022,2024 September 2024	Case report
39	Kitaguchi T, Matsumoto T, Yoshida K, et al.	消化器内科	Inhibitory Effect of Pyra-Metho-Carnil on the Differentiation and Maturation of Macrophages in Normal and Cancer Microenvironments.	ANTICANCER RESEARCH International Journal of Cancer Research and Treatment 44(8):3557-3565,2024 Aug	Original Article
40	Koga T, Yamada H, Ishida Y, et al.	消化器内科	Radial force and wire structure determine the onset of covered self-expandable metal stent migration in endoscopic	J Hepatobiliary Pancreat Sci 31(11):840-849, 2024 Nov 11	Original Article
41	Koga T, Tsuchiya N, Ishida Y, et al.	消化器内科	Structural factors influencing the clinical performance of 0.025-inch guidewires for hepatobiliary endoscopy: An experimental study.	Endoscopy International Open 12(5):E666-E675, 2024 May 3	Original Article
42	Yokoyama K, Tokushige H, Nagata T, et al.	消化器内科	Outcome and Prognosis of Invasive Treatment for Hepatocellular Carcinoma in Very Elderly Patients Over 90 Years Old.	Turkish Journal of Gastroenterology 13,36(6):381-389, 2025 Jan	Original Article

43	Takata K, Kitaguchi T, Tokushige H, et al.	消化器内科	Disappearance of Hepatocellular Adenoma in a Patient with Cornelia de Lange Syndrome after Treatment with Transcatheter Arterial Embolization.	Internal Medicine 63(11):1569-1573, 2024 Jun	Case report
44	Shimoji Y, Yamauchi R, Shibata K, et al.	消化器内科	Two cases of severe oral mucositis caused by atezolizumab plus bevacizumab combination therapy for hepatocellular carcinoma.	Clinical Journal of Gastroenterology 17(3):523-529, 2024 Jun	Case report
45	Masato Furui, Hitoshi Matsumura, Yoshio Hayashida, et al.	心臓血管外科	Repair of a right coronary artery rupture with perforated right ventricle following spontaneous pseudoaneurysm: a case report	Surgical Case Reports 2024.6.12.(オンライン)	Case report
46	Masato Hayama , Chihaya Ito , Yuichi Morita , et al.	心臓血管外科	A case of mitral regurgitation due to bilateral undifferentiated papillary muscles with detailed preoperative diagnosis of associated morphological abnormalities	General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases 2024.5.6.(オンライン)	Case report
47	Masato Furui , Hitoshi Matsumura, Yoshio Hayashida,et al.	心臓血管外科	Spinal Cord Injury Risk in Open Repair for Descending Thoracic and Thoracoabdominal Aneurysm	Annals of Vascular Diseases 2024.9.25. ; 17(3) : 241-247	Original Article
48	Yuichi Morita, Naoki Sakata , Masuhiro Nishimura ,et al.	心臓血管外科	Efficacy of Neonatal Porcine Bone Marrow-Derived Mesenchymal Stem Cell Xenotransplantation for the Therapy of Hind Limb Lymphedema in Mice	Cell Transplantation 2024.6.12.(オンライン)	Original Article
49	Masato Furui, Go Kuwahara, Yuta Sukehiro, et al.	心臓血管外科	Balloon and Glue Technique: A Modification of Distal Reinforcement to Prevent Anastomotic New Entry, Reducing Replacement Range in Acute Type A Aortic Dissection	Journal of Chest Surgery 2025.3.5. ; 58(2) : 65-69	Review
50	Takeshi Miyazaki, Taiki Emoto, Chikao Aoyagi,et al.	腎泌尿器外科	Assessment of the degree of minimal invasiveness in completely retroperitoneal robot-assisted nephroureterectomy	Journal of Endourology Videourology, Vol. 38, No. 1,2024.7	Original Article
51	Hiroshi Matsuzaki, Kazuna Tsubouchi, Yu Okabe,et al.	腎泌尿器外科	The Mayo Adhesive Probability Score as a Predictor of Postoperative Renal Function in Robot- assisted Partial Nephrectomy	Cancer Diagnosis & Prognosis,4: 652- 657,2024.9	Original Article
52	Hiroshi Matsuzaki, Chikao Aoyagi, Masahiro Tachibana, et al.	腎泌尿器外科	Robot-Assisted Partial Nephrectomy after off-Clamp Dividing the Wide and Thick Isthmus for Renal Cancer in the Isthmus of Horseshoe Kidney	Journal of Endourology Videourology, Vol. 38, No. 1,2024.12	Original Article
53	Yu Okabe, Yuichiro Fukuhara, Wataru Matsuoka, et al.	腎泌尿器外科	Identification of risk factors associated with oral 5- aminolevulinic acid induced adverse events in photodynamic diagnosis— transurethral resection of bladder tumor	Photodiagnosis and photodynamic Therapy,49:104291,2024.1 0	Original Article

小計13件

54	Nobuhiro Haga, Mikako Yoshida, Takahiko Mitsui, et al.	腎泌尿器外科	Prevalence and Risk Factors of Stress Urinary Incontinence in a Japan Community Health Survey in 2023 – Differences between Males and Females –	BJUI Compass,6(2): e70004,2025.2	Original Article
55	Gunge N, Fukuhara Y, Matsuoka W, et al.	腎泌尿器外科	Effect of ICG Fluorescence-Assisted New Nerve-Sparing of Robot-Assisted Radical Prostatectomy on Lower Urinary Tract Symptoms	Int J Urol,32(3): 285–292,2025.3	Original Article
56	Fujikane A, Sechi Y, Hiyoshi T, Sakamoto A, Nabeshima S, et al	総合診療科	Antiviral effect of alkaloids-free Ephedra Herb extract on respiratory syncytial virus infection	Frontiers in pharmacology 15:1410470,2024 05 July 2024	Original Article
57	Yasutaka Y, Mishima T, Fujioka S, et al.	脳神経内科	Switching from oral ropinirole to ropinirole transdermal patch in patients with Parkinson's Disease: an observational study.	Neurol Neurochir Pol. 2024 Jul;58(4):465-467.	Others
58	Matsumoto Y, Aisu N, Nagano H et al.	消化器外科	Complications associated with loop ileostomy: analysis of risk factors	Techniques in Coloproctology 2024年5月 2024 May 27;28(1):60. doi: 10.1007/s10151-024-02926-2.	Original Article
59	Kajiwara M, Naito S, Sasaki T et al.	消化器外科	Robotic Left Hepatectomy Using the Glissonean Approach and Saline-Linked Bipolar Clamp-Crush Technique	The international J. Medical Robotics and Computer Assisted Surgery 2024年10月 2024 Oct;20(5):e2674. doi: 10.1002/rcs.2674. 1	Original Article
60	Munehika T, Shiokawa K, Takeshita I, et al.	消化器外科	Laparoscopic Sigmoid Colectomy for Transverse Colonic Varices Due to an Inferior Mesenteric Arteriovenous Fistula	Surgical Case Reports 2024年5月 doi: 10.1186/s40792-024-01911-z. 2024	Case report
61	Masutani K, Nakagawa K, Matsukuma Y et al.	腎臓・膠原病内科	Significance of perivascular aggregates in kidney allografts: evaluation of 1-year protocol biopsies using recent Banff classification.	Transplantation Proceedings 2024 Apr;56 (3): 499–504, 2024	Original Article
62	Takahashi K, Inoue Y, Tada K et al.	腎臓・膠原病内科	Skipping breakfast and progression of chronic kidney disease in the general Japanese population: The Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease (ISSA-CKD).	Kidney and Blood Pressure Research 49 (1): 472–479, 2024 Epub 2024 Jun 7.	Original Article
63	Tada K, Nakano Y, Takahashi K et al.	腎臓・膠原病内科	Current use of angiotensin II receptor blockers and angiotensin-converting enzyme inhibitors for hypertension in patients with chronic kidney disease with proteinuria: a cross-sectional study based on real-world data.	Hypertension Research 48 (1): 244–255, 2025 Epub 2024 Sep 19.	Original Article

小計13件

64	Yasuno T, Tada K, Takahashi K et al.	腎臓・膠原病内科	Dysbiosis of oral bacteria in patients with chronic kidney disease.	Renal Replacement Therapy 10: 63, 2024 Published: 04 November 2024	Original Article
65	Hara S, Morita D, Shibata R et al.	腎臓・膠原病内科	Diffuse large B-cell lymphoma with rapid kidney enlargement after induction of hemodialysis in a patient with IgG4-related disease.	CEN Case Reports, 2024, online ahead of print. Epub 2024 Dec 14.	Case report
66	Yuki Yasutaka, Takayasu Mishima, Shinsuke Fujioka, et al.	福岡大学病院薬剤部	Switching from oral ropinirole to ropinirole transdermal patch in patients with Parkinson's Disease: an observational study	Polish Journal of Neurology and Neurosurgery, vol 58, 465-467, 2024 Jul 9	Letter
67	Mika Higashi, Takafumi Nakano, Keisuke Sato, et al.	福岡大学病院薬剤部	Impact of the First Twenty-Four-Hour Area Under the Concentration-Time Curve/Minimum Inhibitory Concentration of Vancomycin on Treatment Outcomes in Patients With Methicillin-Resistant <i>Staphylococcus aureus</i> Bacteremia	Journal of Clinical Medicine Research, vol 16, 325-334, 2024 Aug 10	Original Article
68	Erika Miura-Takahashi, Kohei Tashiro, Yuhei Shiga, et al.	福岡大学病院薬剤部	Association between pre-treatment with statin and its inhibitory effect on the onset of coronary artery disease at the time of coronary computed tomography angiography: a new look at an old medication.	Heart and Vessels, vol 39, 845-856, 2024 Oct	Original Article
69	Obata S, Nagata K, Suematsu S, et al	総合周産期母子医療センター 呼吸器・乳腺・小児外科	The Effectiveness of Deflux® Treatment for Vesicoureteral Reflux Following Pediatric Renal Transplantation: A Single-Institution Challenging Experience	J Pediatr Surg. 2024 Apr;59(4):616-620. doi: 10.1016/j.jpedsurg.2023.12.005.	Original Article
70	Kawakubo N, Maniwa J, Obata S, et al	総合周産期母子医療センター 呼吸器・乳腺・小児外科	Successful endoscopic approach for peripheral neuroblastic tumors in children.	Pediatr Int. 2024 Jan-Dec; 66(1):e15754. <a href="https://doi.org/10.1111/ped.15754">https://doi.org/10.1111/ped.15754</a> .	Original Article
71	Miyata J, Hamada Y, Obata S, et al	総合周産期母子医療センター 呼吸器・乳腺・小児外科	Qualitative inductive analysis of the lives of women with persistent cloaca based on their narratives	Pediatr Surg Int. 2024 Aug 20;40(1):236, <a href="https://doi.org/10.1007/s00383-024-05807-9">https://doi.org/10.1007/s00383-024-05807-9</a> .	Original Article
72	Murakami M, Kurashima, Obata S, et al	総合周産期母子医療センター 呼吸器・乳腺・小児外科	How many cases do young pediatric surgeons need to experience to achieve autonomy in performing pediatric endoscopic surgery? A nationwide survey to establish an ideal curriculum for pediatric endoscopic surgery in Japan	Pediatr Surg Int 2024 Dec 31;41(1):54. doi: 10.1007/s00383-024-05958-9.	Original Article
73	Kakiuchi T, Obata S, Koji A, et al	総合周産期母子医療センター 呼吸器・乳腺・小児外科	Case Report: The importance of early intervention for gastroesophageal reflex disease caused by hiatal hernia	Front Pediatr 2024 May 13:12:1305585. doi: 10.3389/fped.2024.1305585	Case report

74	Sakata N, Yoshimatsu G, Kawakami R, et al.	医学部 再生・移植医学講座／福岡大学病院 再生医療センター	Influence of relatively short-term culture on adult porcine islets for xenotransplantation	Sci Rep. 2024 May; 14(1): 11640. (オンライン)	Original Article
75	Morinaga E, Sakata N, Kawakami R, et al.	医学部 再生・移植医学講座(院生)／福岡大学病院 再生医療センター	Effectiveness Evaluation of Microneedling Therapy for Diabetic Ulcer: An Animal Model Study.	Plastic and Reconstructive Surgery – Global Open. 2024 Sep; 12(9): e6200. (オンライン)	Original Article
76	Hirakawa T, Nakabayashi K, Ito N, et al.	産婦人科	Transwell Culture with Adipose Tissue-Derived Stem Cells and Fertilized Eggs Mimics the In Vivo Development of Fertilized Eggs to Blastocysts in the Fallopian Tube: An Animal Study	Antioxidants, 2024 Jun 8, 13(6), 704(オンライン)	Original Article 小計13件
77	Ishida K, Kiyoshima C, Urushiyama D, et al.	産婦人科	Clinical Significance of miR-4535 and miR-191-5p in Maternal Serum as Independent Biomarkers for Severe Chorioamnionitis	Cureus, 2024 Oct 22, 16(10): e72120(オンライン)	Original Article
78	Hirakawa T, Yotsumoto F, Imi S, et al.	産婦人科	Adipose-derived mesenchymal stem cell transplantation improves ovarian function and oocyte quality in aged mice	Anticancer Res, 2024 Jun 12, 44(8):3577-3586 (オンライン)	Original Article
79	Kiyoshima C, Kimura I, Ishida K, et al.	産婦人科	Effectiveness of the Traditional Japanese Herbal Medicine, Yokuinin (Kampo), in the Treatment of Cervical Precancerous Lesions	Cureus, 2025 Jan 7, 17(1): e77114(オンライン)	Original Article
80	Miyata K, Shibata C, Fukunishi H, et al.	産婦人科	Cardiotocography-Based Experimental Comparison of Artificial Intelligence and Human Judgment in Assessing Fetal Asphyxia During Delivery	Cureus, 2025 Jan 31, 17(1): e77115(オンライン)	Original Article
81	Nagata K, Hirakawa T, Izuchi D, et al.	産婦人科	Placental Adhesion Subsequent to Uterine Preservation via Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of the Aorta: A Case Report	Cureus, 2024 Dec 15, 16(12): e75732(オンライン)	Case report
82	Kawanami D. et al. (Japanese Society of Nephrology)	内分泌・糖尿病内科	Essential points from evidence-based clinical practice guideline for chronic kidney disease 2023.	Clin Exp Nephrol. 28(6):473-495, Jun, 2024	Original Article
83	Takashi Y, Kawanami D, Fukumoto S.	内分泌・糖尿病内科	Recent advances in fibroblast growth factor 23-related hypophosphatemic disorders.	Curr Opin Endocrinol Diabetes Obes. 31(4):170-175, Aug, 2024	Review
84	Takashi Y.	内分泌・糖尿病内科	Phosphate-sensing mechanisms and functions of phosphate as a first messenger.	Endocr J. 71(4):335-343, Apr 30, 2024	Review

85	Morishita T, Sakai Y, et al.	脳神経外科	Surgical Concepts and Long-term Outcomes of Thalamic Deep Brain Stimulation in Patients with Severe Tourette Syndrome: A Single-center Experience	Neurol Med Chir (Tokyo). 2024 Aug.	Original Article
86	Fukumoto H, Morishita T, et al.	脳神経外科	Clinical characteristics and management of vertebral artery dissection without definitive imaging features: A single center cohort study	Interdisciplinary Neurosurgery . 2024 Sep	Original Article
87	Sanada K, Tanaka J, Ohta H, et al.	整形外科	Outcomes of Balloon Kyphoplasty for Vertebral Compression Fractures in Patients with Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis at the Distal End or Adjacent Vertebra of the Fused Segments	Asian Spine J2024 Apr;18(2): 244-250.	Original Article
88	Fujita J, Doi N, Kinoshita K, et al.	整形外科	Incidence and clinical outcome of lateral femoral cutaneous nerve injury after periacetabular osteotomy.	Bone Joint J. 2024 May 1;106-B(5 Supple B):11-16.	Original Article
89	Sato T, Yamate S, Utsunomiya T, Inaba Y, et al.	整形外科	Life Course Epidemiology of Hip Osteoarthritis in Japan: A Multicenter, Cross-Sectional Study.	J Bone Joint Surg Am. 2024 Jun 5;106(11):966-975.	Original Article
90	Yoshimura F, Matsunaga T, Kinoshita K, et al.	整形外科	Assessment of the Hip Flexor Muscles Shortly after Curved Periacetabular Osteotomy using Magnetic Resonance Imaging.	J Arthroplasty.2024 Jun;39(6):1450-1454.	Original Article
91	Kobayashi S, Miyake S, Shibata T, et al.	整形外科	Risk of Axillary Nerve Injury With Medial Support Screws in Intramedullary Nails: An Anatomical Study	Cureus2024 Jul 8;16(7):e64119.	Original Article
92	Hara J, Maeyama A, Ishimatsu T, et al.	整形外科	A Morphological Study of Distal Femoral Varus Deformity.	Cureus. 2024 Jul 18;16(7):e64822.	Original Article
93	Tomonaga S, Yoshimura I, Hagio T, et al.	整形外科	Return to Sports Activity After Microfracture for Osteochondral Lesion of the Talus in Skeletally Immature Children.	Foot Ankle Int. 2024 Jul;45(7):711-722.	Original Article
94	Kudo Y, Maeyama A, Ishimatsu T, et al.	整形外科	Patellar height changes sequentially after medial open wedge high tibial osteotomy: Evaluation using shear wave elastography	J Orthop Sci. in press2024 Aug 13:S0949-2658(24)00148-9.	Original Article
95	Miyazaki K, Maeyama A, Matsunaga T, et al.	整形外科	Pathophysiology of abnormal compensation ability of the subtalar joint in the varus knee.	J Orthop Sci.2024 Sep;29(5):1259-1264.	Original Article

小計13件

96	Doi K, Moazamian D, Namiranian B, et al.	整形外科	The Correlation between the Elastic Modulus of the Achilles Tendon Enthesis and Bone Microstructure in the Calcaneal Crescent.	Tomography. 2024 Oct 10;10(10):1665–1675.	Original Article
97	Kinoshita K, Fujita J, Matsunaga T, et al.	整形外科	Use of oblique view in periacetabular osteotomy and delayed postoperative weight bearing reduce delayed union in the ischium after one year	Sci Rep2024 Oct 10;14(1):23720.	Original Article
98	Miyake S, Shibata T, Kobayashi S, et al.	整形外科	Risk Factors for High Repair Tension During Rotator Cuff Repair.	Orthop J Sports Med. 2024 Oct 9;12(10):23259671241276 445.	Original Article
99	Shibata T, Doi N, Shibata Y, et al.	整形外科	Application of indocyanine green fluorescence angiography in evaluating blood flow in rotator cuff tears: a preliminary study	J Shoulder Elbow Surg2024 Oct;33(10):2149–2158.	Original Article
100	Suzuki M, Masuda T, Kanno T, et al.	整形外科	Minimum 10-Year Survivorship of Uncemented Acetabular Reconstruction With Bulk Femoral Head Autografting in Crowe Type IV Developmental Hip Dysplasia.	J Arthroplasty.2024 Oct;39(10):2542–2546.	Original Article
101	Minokawa S, Shibata Y, Shibata T, et al.	整形外科	Bone formation of the coracoid bone graft after the Bristow procedure assessed using three-dimensional computed tomography.	J Orthop Sci. 2024 Nov;29(6):1382–1388.	Original Article
102	Maeyama A, Kondo M, Harada H, et al.	整形外科	Efficacy and safety of baricitinib in rheumatoid arthritis patients with moderate renal impairment: a multicenter propensity score matching study.	BMC Rheumatol. 2024 Dec 18;8(1):69.	Original Article
103	Takuaki Yamamoto, Woo-Lam Jo	整形外科	The Pathology of Osteonecrosis of the Femoral Head	OsteonecrosisFirst Online: 18 January 2025 pp 209–217	Original Article
104	Takuaki Yamamoto, Goro Motomura, Ryosuke Yamaguchi	整形外科	The Role of Coagulopathy in the Pathogenesis and Prevention of Corticosteroid- Induced Osteonecrosis	OsteonecrosisFirst Online: 18 January 2025 pp 331–336	Original Article
105	Takuaki Yamamoto, Satoshi Ikemura	整形外科	Transtrochanteric Curved Varus Osteotomy for the Treatment of Osteonecrosis of the Femoral Head	OsteonecrosisFirst Online: 18 January 2025 pp 435–442	Original Article

小計13件

106	Uesugi Y, Sakai T, Ando W, et al.	整形外科	A Five-Year Longitudinal Assessment of Quality of Life in Patients Who Have Osteonecrosis of the Femoral Head Undergoing Total Hip Arthroplasty. A Multicenter Study.	J Arthroplasty 2025 Jan 15:S0883-5403(25)00017-8.	Original Article
107	Ogasawara M, Tanaka H, Tsukano H, et al.	整形外科	Incidence and Risk Factors of Ulnar Neuropathy After the Surgical Treatment of Distal Humeral Fractures	Cureus 2025, 17(3):e81506. eCollection 2025 Mar.	Original Article
108	Matsunaga K, Miyake S, Izaki T, et al.	整形外科	Serial Magnetic Resonance Arthrography for a Midsubstance Capsular Tear in a Patient With Traumatic Anterior Shoulder Instability	Cureus 2024 Apr 29;16(4):e59247.	Case report
109	Yoshimura F, Doi K, Kinoshita K, et al.	整形外科	Corticosteroid-associated osteonecrosis of the femoral head in an 87-year-old patient following treatment for COVID-19-associated pneumonia: A case report.	Skeletal Radiol. 2024 Dec;53(12):2741-2744.	Case report
110	Yamasaki Y, Maeyama A, Takeuchi M, et al.	整形外科	Bilateral Snapping Knee in a Patient with Rheumatoid Arthritis Accompanied by Sjögren's Syndrome - A Case Report	Journal of Orthopaedic Case Reports 2024 Dec;14(12): 18-21	Case report
111	Koga M, Maeyama A, Ishimatsu T, et al.	整形外科	A case of high tibial osteotomy in a patient with psoriatic arthritis	Mod Rheumatol Case Rep. 2025 Jan 23:rxaf007.	Case report
112	Sato E, Imayoshi H, Tsutsui Y, Shimizu H, Imafuku S.	皮膚科	Mature IL-36 $\gamma$ Induces Stratum Corneum Exfoliation in Generalized Pustular Psoriasis by Suppressing Corneodesmosin.	J Invest Dermatol. 2024 Apr. 144(4):764-773, e4, 2024	Original Article
113	Sato E, Arima H, Ito K, Iwata M, Imafuku S.	皮膚科	Comparative effectiveness of treatments on time to remission in atopic dermatitis: real-world insights	J Cutan Immunol Allergy. 2024 June. 7:12974, 2024	Original Article
114	Masuyuki R, Sato E, Imafuku S.	皮膚科	A case of bullous pemphigoid following administration of anti-IL-31 receptor A antibody.	J Dermatol. 2024 Sept. 51(9):1252-1255, 2024	Case report
115	Imafuku S, Takeuchi S, Urabe K, et al.	皮膚科	An exploratory study of the efficacy and safety of amenamevir for the treatment of herpes zoster in patients receiving immunosuppressive drugs	J Dermatol. 2024 Oct. 51(10) : 1279-1289, 2024	Original Article

小計13件

116	Sato K, Tanaka S, Urakawa H, et al	放射線科	Gallbladder fossa nodularity in the liver as observed in alcoholic liver disease patients: Analysis based on hepatobiliary phase signal intensity on gadoxetate-enhanced MRI and extracellular volume fraction calculated from routine CT data	Global Health & Medicine,30;6(3): 183-189 2024.06	Original Article
117	Honda G, Nagamachi S, Takahashi M, et al	放射線科	The usefulness of combined analysis using CIScore and VSRAD parameters for differentiating between dementia with Lewy body and Alzheimer's disease	Jpn J Radiol,42(10): 1206-1212 2024.10	Original Article
118	Takayama Y, Sato K, Tanaka S, et al	放射線科	Effectiveness of deep learning-based reconstruction for improvement of image quality and liver tumor detectability in the hepatobiliary phase of gadoxetic acid-enhanced magnetic resonance imaging	Abdom Radiol (NY),49(10): 3450-3463 2024.07	Original Article
119	Fujita N, Ushijima Y, Ishimatsu K, et al	放射線科	Multiparametric assessment of microvascular invasion in hepatocellular carcinoma using gadoxetic acid-enhanced MRI	Abdom Radiol (NY),49(5): 1467-1478 2024.05	Original Article
120	Fujita N, Ushijima Y, Ishimatsu K, et al	放射線科	Correction to: Multiparametric assessment of microvascular invasion in hepatocellular carcinoma using gadoxetic acid-enhanced MRI	Abdom Radiol (NY),49(7): 2559-2560 2024.05	Others
121	Okamoto D, Ushijima Y, Fujita N, et al	放射線科	Safety and clinical contribution of computed tomography-guided biopsy for cervical spine lesion	Minim Invasive Ther Allied Technol,33(3): 171-175 2024.06	Original Article
122	Takayama Y, Koga T, Hamada Y, et al	放射線科	Prediction of the wall-invasion pattern of advanced gallbladder carcinoma using extracellular volume fraction	Jpn J Radiol, doi: 10.1007/s11604-025-01768-8 2025.03	Original Article
123	Hisatomi E, Tanaka S, Sato K, et al	放射線科	Heterogeneous development of liver fibrosis in chronic hepatitis C patients; assessment by extracellular volume fraction map generated from routine clinical CT data	Eur J Radiol,2025 Jan:182:111845. doi: 10.1016/j.ejrad.2024.111845. Epub 2024 Nov 26.	Original Article
124	Sato K, Hisatomi E, Tanaka S, et al	放射線科	Chronological change of gallbladder fossa nodularity in the liver as observed in patients with alcoholic liver disease: cross-sectional and longitudinal observation	Jpn J Radiol,doi: 10.1007/s11604-025-01741-5. 2025.02	Original Article

125	Yamashita K, Murayama R, Itoyama M, et al	放射線科	The cortical high-flow sign in oligodendrogloma, IDH-mutant and 1p/19q-codeleted is correlated with histological cortical vascular density	Neuroradiology, 67(2): 291-298 2025.02	Original Article
126	Yoshihara F, Matsuzawa Y, Nakatsuka K et al.	国立循環器病研究センター	Relationship between 2nd-generation angiotensin receptor blockers and the risk of hypotension in COVID-19 patients admitted to hospital	Hypertens Res. 2024 Jul; 47(7):1943-1951	Original Article
127	Abe M, Hirata T, Morito N et al.	福岡大学病院	Smartphone application-based intervention to lower blood pressure: a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res. 2025 Feb; 48(2):492-505	Original Article
128	Tanaka M, Aoki M, Masuda Y, et al.	呼吸器・乳腺・小児外科	Stromal CD73 Expression in Breast Cancer: Subtype-specific Expression and its Prognostic Significance.	Anticancer Res. 44(8):3637-3643, 2024 August	Original Article
129	Ueda Y, Miyahara S, Tokuishi K, et al.	呼吸器・乳腺・小児外科	First clinical application of a surgical robot with haptic force feedback function for thoracic surgery: a case report.	Shanghai Chest. 8:16, 2024 July	Case report

1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めることあること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載する

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 卷数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択するこ

小計13件

計129件

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	著頭者名の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	大山拓人、高木誠司	形成外科	III. 躯幹 胸郭再建における創傷治癒	形成外科2024.6月増刊号	Review
2	高木誠司、谷ありさ	形成外科	私の診療経験から 他科でもお役立ていただきたい形成外科の最新治療	臨床と研究2024.09	Review
3	高木誠司、鈴木翔太郎、谷ありさ	形成外科	胸郭変形に対する手術シミュレーション	PEPARS2024.11	Review
4	前山徹、前岡尚憲、高木誠司	形成外科	尿膜管遺残症摘出後の臍形成	形成外科2024.11	Review
5	藤田昌樹	呼吸器内科	アミカシンリポソーマル吸入用懸濁液(アリケイス)	呼吸器内科 45(6);605-610, 2024年6月	Review
6	藤田昌樹	呼吸器内科	気管支拡張症の治療 マクロライド以外の治療	呼吸器ジャーナル 72(2); 236-242, 2024年5月	Review
7	吉村力、有馬久富	睡眠センター	高齢者診療におけるSaMDの可能性	日本臨床 82(4):622-626 2024年4月	Review
8	吉村力	睡眠センター	睡眠関連呼吸障害と慢性咳嗽	呼吸器内科 46 (5); 453-457, 2024年11月	Review
9	Ryo Asada,Hikaru Hori,Leo Gotoh 他	精神神経科	Lower plasma tumor necrosis factor- $\alpha$ is associated with symptomatic remission in patients with schizophrenia	Journal of Psychiatric Research 177(2024)299-304 Epub 2024 Jul 22	Original Article
10	Shinichiro Ochi,Takashi Tsuboi,Naomi Hasegawa, at al.	精神神経科	The association between benzodiazepine prescriptions and the risk of laxative use in schizophrenia treatment	WILEY Neuropsychopharmacology Reports 2024;00:1-7 First published: 07 November 2024	Original Article
11	Erhan Kavakbasi,Emma Sampson,Natalie T.Mills, at al.	精神神経科	Inflammation-stratified augmentation of vortioxetine with celecoxib;Results from a double-blind,randomized,placebo-controlled trial in major depressive disorder	WILEY Journal of Neurochemistry 2024Sep;168:1817-1825	Original Article

12	Harada K, Eto N, Leo Gotoh, at al.	精神神経科	Characteristics of patients with mood disorders and schizophrenia who attempt suicide: a 15-year cross-sectional study in Japan	Academia Mental Health and Well-Being 2024,12.19	Original Article	小計12件
13	Masato Masuda, Brian Waters, Leo Gotoh 他	精神神経科	Qualitative analysis of blood from patients engaging in deliberate self-harm: Difference between prescribed and detected drugs.	Neuropsychopharmacology Reports. 2024;00:1-12. DOI: 10.1002/npr2.12492 Epub 2024 Oct 28.	Original Article	
14	Nakamura T, Furihata R, Hasegawa N, at al.	精神神経科	The effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders on psychiatrists' hypnotic medication prescribing behavior: a multicenter study.	BMC Psychiatry 2024 May 29;24(1):399	Original Article	
15	Sayuri Nakamura, Hiroko Sugawara, Ryo Asad, at al.	精神神経科	Bipolar disorder and Lewy body dementia:case report and literature review	frontiers in Psychiatry 4-Jun-24	Case report	
16	Nobuaki Eto	精神神経科	How to survive the violent destruction of structures	IPSO Journal 2023 2024,72-77 7月	Case report	
17	堀 輝	精神神経科	Practice Guidelines for Bipolar Disorder by the JSMD(Japanese Society of Mood Disorders)	PCN Psychiatry and Clinical Neurosciences REVIEW ARTICLE Epub 2024 Aug 28.	Review	
18	堀 輝	精神神経科	双極性障害と就労	日社精医誌 33:162-168,2024 5月	Review	
19	堀 輝	精神神経科	特集 うつ病 外来治療 労働者のうつ病治療	精神科Resident Vol.5 No.1 2024 4月	Review	
20	中野和歌子, 堀 輝	精神神経科	溶連菌感染症関連小児自己免疫性神経精神疾患(PANDAS)／シデナム舞踏病	精神科治療学 第39巻増刊号 2024,10	Review	
21	菅原裕子, 堀 輝	精神神経科	精神疾患の診断	月刊薬事 10月臨時増刊号 2024.10 vol66 No.14	Review	
22	菅原裕子, 堀 載	精神神経科	日常診療で認知機能評価をするために知っておきたいこと 特集「Measurement Based Careのススメ—忙しい臨床で評価するには—」	臨床精神薬理 27:397-402,2024 4月	Review	

23	菅原裕子	精神神経科	治療抵抗性双極性障害へのアプローチ 特集「治療抵抗例・難治例の精神疾患治療 Update」	臨床精神薬理 27:457-463,2024 5月	Review
24	菅原裕子	精神神経科	うつ病治療中に双極性障害を疑う際の薬物療法のポイント 特集—こんなときどうする？いまさら聞けないうつ病治療における薬物療法—虎の巻	精神科治療学 39(8):845-849,2024 8月	Review
25	田上真次、小林克治、角典哲、他	精神神経科	精神運動性焦燥や希死念慮が前景に立つ大うつ病性障害に気分安定薬の投与を先行し抗うつ薬で改善した3症例	精神科治療学 40(1):97-104,2025 1月 星和書店	Review
26	衛藤暢明	精神神経科	自殺 特集 思春期医療に向き合う～苦手意識からの脱却	小児内科 56(9),1419-1422, 2024 9月	Review
27	福本健太郎,稻田健,村岡寛之,他	精神神経科	Individual Fitness Score (IFS)による治療ガイドライン—一致率の評価 臨床での活用に向けて	精神医学 66巻9号 2024年9月	Review
28	横山浩之	精神神経科	デイケアにおける運動・スポーツ一体育療法の技法を通して	スポーツ精神医学 2024:21:14-18 9月	Review
29	菅原裕子	精神神経科	第2章 現場で出会う症状のアセスメントと初期治療・ケア 8 怒り/サイコネuroロジー診療ガイド	株式会社メディカ出版 2024, 59-62 4月	Others
30	Hikaru Hori	精神神経科	Inter-rater reliability study of the Japanese version of the diagnostic clinical interview for drug withdrawal post SSRIs or SNRIs (DID-W1-J)	Psychiatry Clin.Neurosci.Rep.2025;4; e70050. 1月8日	Others
31	Hirofumi Hirakawa, Hikaru Hori,他	精神神経科	Editorial : Bipolar disorder and cognition : cognitive decline and dementia	frontiers in Psychiatry 13-Feb-25	Others
32	飯田仁志(分担)	精神神経科	医師・看護師のための認知症プライマリケアまるごとガイド 最新知識に基づくステージアプローチ	中央法規出版 pp.51-53, 81-87, 2024 4月	Others
33	益永拓也、田浦政彦、木村翔一、他	福岡大学病院	当科における口腔癌術後の嚥下障害に関する臨床的研究	耳鼻と臨床 70(5):248-254 2024 9月	Original Article
34	宮城慎平、瓜生英興、青谷亜由美、	福岡大学病院	当院での甲状腺未分化癌症例の検討	耳鼻と臨床 70(6):335-342 2024 9月	Original Article

小計13件

35	榎 和哉、田浦政彦、木村翔一、他	福岡大学病院	再生不良性貧血を合併した下咽頭癌の1例	耳鼻と臨床 70(3):144-149 2024 9月	Original Article
36	高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の国際予後指標(NCCN-IPI)	胃と腸 59(4)増大号: 623,2024.4.25	Review
37	武田 由香、松尾 早希子、志賀 悠平、他	栄養部	心不全ハイリスク患者の心臓リハビリテーションにおける管理栄養士の介入と療養支援	臨牀と研究 2024年7月 ;101(7):877-880	Original Article
38	野瀬 大輔、井林 雄太、今泉聰、他	循環器内科	医療従事者による地域の小・中学生へむけた教育連携事業の取り組み	臨牀と研究 2024年4月 ;101(4):484-487	Original Article
39	藤田政臣、手島礼子、中島夕楓、他	リハビリテーション部	重症下肢虚血症例に対する和温療法における理学療法士としての役割	和温療法学会誌 2024年11月 ;2:19-25	Original Article
40	手島礼子、藤見幹太、末松保憲、他	リハビリテーション部	経カテーテル大動脈弁植え込み術後のフレイル・身体機能へ影響を与える因子	臨牀と研究 2025年1月 ;102(1):75-79	Original Article
41	児島加奈子、瀬戸上貴資、伊東和俊、他	小児科	ヒトパピローマウイルス(HPV: Human papillomavirus)ワクチン接種を促進するための検討:福岡大学でのアンケート調査の結果を基に	思春期学 42(2); 353-363 2024 8月	Original Article
42	松岡美智子、石井隆大、永光信一郎、他	小児科	精神疾患患者を親にもつ子どもへのインタビュー調査	子どもの心とからだ33(3); 298-306 2024 11月	Original Article
43	宗近瑞希、ハツ賀秀一、林仁美他	小児科	COVID-19流行下の受診控えにより相対的亜鉛過剰による銅欠乏性貧血をきたした医療的ケア児の1例	小児内科 56(4); 723-725 2024 4月	Case report
44	岡田 真人、丸山大地、武谷一徹、他	小児科	知的運動退行を伴うけいれん発作、情動脱力発作を呈し、新生児期の肝障害の既往を契機にNiemann-Pick病C型の診断に至った9歳男児	脳と発達 56(3); 225 2024 6月	Case report
45	桑原 豪、和田秀一	心臓血管外科	【浮腫性疾患を極める-鑑別診断から治療・指導まで-】局所性浮腫 深部静脈血栓症	臨床と研究 2024.9.23 ; 101(10) : 1232-1236	Review
46	和田 秀一	心臓血管外科	【動脈・静脈の疾患2024(上)-最新の診断・治療動向-】動脈・静脈疾患(四肢、体幹)下肢静脈瘤 病因と病態 動脈・静脈の疾患2024(上)	日本臨床 2024.6.30. ; 82 増刊4 : 333-336	Review

47	Nobuyuki Nakamura, Taiki Emoto, Yuichiro Fukuhara, et al.	腎泌尿器外科	Factors related to nocturia-specific quality of life in renal transplantation patients	LUTS,16(3): e12517,2024.5	Original Article
48	宮崎 健, 麻生 信太郎, 立花 昌寛 他	腎泌尿器外科	ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術の安全性と有用性の検討 - 腹腔鏡下腎盂形成術との比較	Japanese Journal of Endourology and Robotics,37(1): 131-136, 2024. 7	Original Article
49	羽賀 宣博、坪内 和女、江本 大紀 他	腎泌尿器外科	治療の実際 ここだけは押さえたい! 排尿障害の診断と治療	臨床と研究,101(9): 1167-1172,2024.9	Review
50	松尾勇輝、松崎 洋吏、財前俊宏 他	腎泌尿器外科	術前の針生検で確定診断が得られなかった成人発症腎芽腫	西日本泌尿器科,87(2): 73-77,2024.12	Case report
51	羽賀 宣博、江本 大紀、立花 昌寛 他	腎泌尿器外科	各論 5 腎泌尿器疾患(診断と治療) 14.過活動膀胱	腎と透析,97 (増刊) : 481-486,2024.12	Review
52	中村信之	腎泌尿器外科	貧血治療は科学である	九州人工透析研究会誌, 8: 103-110,2024.12	Review
53	Kyosuke Goto	リハビリテーション部	The Significance of Off-Season Tailor-Made Baseline Measurements in the Assessment of Post-Concussion in University Athletes	Brain sciences 14(8):835,2024 7月	Original Article
54	Kyosuke Goto	リハビリテーション部	Association between Age Group at Initial Ankle Sprain and Athletic History in Patients with Chronic Ankle Instability	Biomed J Sci & Tech Res 58(5):50912-50921,2024 9月	Original Article
55	柴田稜子、尾崎 智美、中村翼ほか	腎臓・膠原病内科	メトホルミン大量内服患者に対して血液透析を実施した一例。	腎と透析98 (1): 122-125, 2025 1月	Case report
56	櫻井裕子, 宮崎 健, 多田和弘ほか.	腎臓・膠原病内科	死戦期の急性腎障害のため移植の適応判断に苦慮した脳死下献腎移植の一例.	九州人工透析研究会誌8: 42-46, 2024 12月	Case report
57	升谷耕介	腎臓・膠原病内科	移植後感染症.	腎と透析96 (5): 688-693, 2024 5月	Review
58	宇都 誠志, 安高 勇気, 濱走 優人, 他	福岡大学病院薬剤部	リフィル処方箋の現状調査と病院経営面への影響	日本病院薬剤師会雑誌, 60巻, 402-407,2024年4月	Original Article

小計13件

59	井上 竜一, 角康隆, 長郷 あかね, 他	福岡大学病院薬剤部	外来がん薬物療法における病薬連携の取り組みに対する非高齢者および高齢者の患者満足度に関する比較	医療薬学, 50巻, 219-227, 2024年5月	Original Article
60	柿本 秀樹, 大倉野 将広, 長郷 あかね, 他	福岡大学病院薬剤部	がん薬物療法における過敏正反応予防薬である第二世代抗ヒスタミン薬に関する後方視的調査	癌と化学療法, 51巻, 631-635, 2024年6月	Original Article
61	大藪 康平, 安高 勇氣, 舌間 清晃, 他	福岡大学病院薬剤部	睡眠薬を服用している高齢者と非高齢者に対するレンボレキサント導入に関する後方視的調査	日本老年薬学会雑誌, 7巻, 34-39, 2024年6月	Original Article
62	江川 優香, 内山 将伸, 江越 菜月, 他	福岡大学病院薬剤部	がん悪液質患者におけるアナモレリンの投与継続に関する因子の探索: 単施設後ろ向き研究	薬学雑誌, 144巻, 767-774, 2024年7月	Others
63	井上 菜月, 内山 将伸, 江川 優香, 他	福岡大学病院薬剤部	アナモレリン塩酸塩の有効性および安全性に関する調査研究	日本臨床腫瘍薬学会雑誌, 38巻, 1-6, 2024年10月	Others
64	大塚 誠, 田渕 知佳, 濱走 優人, 他	福岡大学病院薬剤部	福岡大学病院における薬剤アレルギー歴登録の現状	九州薬学会雑誌, 78巻, 57-62, 2024年10月	Original Article
65	池内 忠宏、神村 英利	福岡大学病院薬剤部	病院薬剤師の人材確保に向けた病院見学会の試み～薬剤師レジデントを志望する薬学生へのアンケート調査～	社会薬学, 43巻, 76-81, 2024年12月	Others
66	五十嵐 保陽, 大津 友起, 西真理子, 他	福岡大学病院薬剤部	A survey on the attitudes of pharmacy students at Fukuoka University Hospital toward organ transplantation treatment	薬学教育, 8巻, 235-241, 2025年1月	Original Article
67	吉松 軍平, 塩川 圭一, 竹下 一生, 他	再生医療センター、消化器外科	【JSES技術認定取得をめざせ2025】大腸 ロボット支援S状結腸切除術	臨床外科、79(13): 1368-1378, 2024年12月	Review
68	横溝 久, 川浪 大治	内分泌・糖尿病内科	糖尿病性腎症に関する現状と今後の展望	日本体質医学会誌 86(2):87-95, 2024年6月30日	Review
69	川浪大治	内分泌・糖尿病内科	慢性腎臓病合併2型糖尿病におけるGLP-1受容体作動薬の腎アウトカム: 日本からの展望	新薬と臨床 73(8) :736-758, 2024年8月10日	Review
70	高士祐一	内分泌・糖尿病内科	副甲状腺とカルシウムミネラル代謝、FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症とリン感知機構	医学のあゆみ 290(9):716-721, 2024年8月31日	Review
71	Tega J, Horio Y, Suzuki K, et al.	脳神経外科	thrombectomy for left internal carotid artery occlusion with ipsilateral dual accessory middle cerebral arteries	Acta Neurochir (Wien). 2024 Nov.	Case report

小計13件

72	天野真太郎, 山城慧, 福本博順他	脳神経外科	術前シミュレーションにおける3次元コンピューターグラフィックスシミュレーションソフトと手術イラストの比較検討	脳神経外科速報・2025年3月	Case report
73	Sanada K, Tanaka J, Ohta H, et al.	福岡大学病院	Outcomes of Balloon Kyphoplasty for Vertebral Compression Fractures in Patients with Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis at the Distal End or Adjacent Vertebra of the Fused Segments	Asian Spine J2024 Apr;18(2): 244-250.	Original Article
74	Fujita J, Doi N, Kinoshita K, et al.	福岡大学医学部整形外科	Incidence and clinical outcome of lateral femoral cutaneous nerve injury after periacetabular osteotomy.	Bone Joint J. 2024 May 1;106-B(5 Supple B):11-16.	Original Article
75	Sato T, Yamate S, Utsunomiya T, Inaba Y, et al.	九州大学整形外科	Life Course Epidemiology of Hip Osteoarthritis in Japan: A Multicenter, Cross-Sectional Study.	J Bone Joint Surg Am. 2024 Jun 5;106(11):966-975.	Original Article
76	Yoshimura F, Matsunaga T, Kinoshita K, et al.	福岡大学病院	Assessment of the Hip Flexor Muscles Shortly after Curved Periacetabular Osteotomy using Magnetic Resonance Imaging.	J Arthroplasty. 2024 Jun;39(6):1450-1454.	Original Article
77	Kobayashi S, Miyake S, Shibata T, et al.	福岡大学病院	Risk of Axillary Nerve Injury With Medial Support Screws in Intramedullary Nails: An Anatomical Study	Cureus2024 Jul 8;16(7):e64119.	Original Article
78	Hara J, Maeyama A, Ishimatsu T, et al.	福岡大学病院	A Morphological Study of Distal Femoral Varus Deformity.	Cureus. 2024 Jul 18;16(7):e64822.	Original Article
79	Tomonaga S, Yoshimura I, Hagi T, et al.	福岡大学病院	Return to Sports Activity After Microfracture for Osteochondral Lesion of the Talus in Skeletally Immature Children.	Foot Ankle Int. 2024 Jul;45(7):711-722.	Original Article
80	Kudo Y, Maeyama A, Ishimatsu T, et al.	福岡大学病院	Patellar height changes sequentially after medial open wedge high tibial osteotomy: Evaluation using shear wave elastography	J Orthop Sci. in press2024 Aug 13:S0949-2658(24)00148-9.	Original Article
81	Miyazaki K, Maeyama A, Matsunaga T, et al.	福岡大学病院	Pathophysiology of abnormal compensation ability of the subtalar joint in the varus knee.	J Orthop Sci. 2024 Sep;29(5):1259-1264.	Original Article
82	Doi K, Moazamian D, Namiranian B, et al.	福岡大学医学部整形外科	The Correlation between the Elastic Modulus of the Achilles Tendon Enthesis and Bone Microstructure in the Calcaneal Crescent.	Tomography. 2024 Oct 10;10(10):1665-1675.	Original Article
83	Kinoshita K, Fujita J, Matsunaga T, et al.	福岡大学病院	Use of oblique view in periacetabular osteotomy and delayed postoperative weight bearing reduce delayed union in the ischium after one year	Sci Rep2024 Oct 10;14(1):23720.	Original Article

小計13件

84	Miyake S, Shibata T, Kobayashi S, et al.	福岡大学病院	Risk Factors for High Repair Tension During Rotator Cuff Repair.	Orthop J Sports Med. 2024 Oct 9;12(10):23259671241276 445.	Original Article
85	Shibata T, Doi N, Shibata Y, et al.	福岡大学医学部整形外科	Application of indocyanine green fluorescence angiography in evaluating blood flow in rotator cuff tears: a preliminary study	J Shoulder Elbow Surg 2024 Oct;33(10):2149-2158.	Original Article
86	Suzuki M, Masuda T, Kanno T, et al.	福岡大学医学部整形外科	Minimum 10-Year Survivorship of Uncemented Acetabular Reconstruction With Bulk Femoral Head Autografting in Crowe Type IV Developmental Hip Dysplasia.	J Arthroplasty. 2024 Oct;39(10):2542-2546.	Original Article
87	Kinoshita K, Fujita J, Seo H, Matsunaga T, et al.	福岡大学病院	Should discontinuity of the osteotomy site 1 year after periacetabular osteotomy be diagnosed as delayed union and not non-union?	J Orthop Sci. In press 2025 Jul;30(4):633-639.	Original Article
88	Minokawa S, Shibata Y, Shibata T, et al.	福岡大学筑紫病院	Bone formation of the coracoid bone graft after the Bristow procedure assessed using three-dimensional computed tomography.	J Orthop Sci. 2024 Nov;29(6):1382-1388.	Original Article
89	Maeyama A, Kondo M, Harada H, et al.	福岡大学病院	Efficacy and safety of baricitinib in rheumatoid arthritis patients with moderate renal impairment: a multicenter propensity score matching study.	BMC Rheumatol. 2024 Dec 18;8(1):69.	Original Article
90	Takuaki Yamamoto, Woo-Lam Jo	福岡大学医学部整形外科	The Pathology of Osteonecrosis of the Femoral Head	OsteonecrosisFirst Online: 18 January 2025 pp 209-217	Original Article
91	Takuaki Yamamoto, Goro Motomura, Ryosuke Yamaguchi	福岡大学医学部整形外科	The Role of Coagulopathy in the Pathogenesis and Prevention of Corticosteroid-Induced Osteonecrosis	OsteonecrosisFirst Online: 18 January 2025 pp 331-336	Original Article
92	Takuaki Yamamoto, Satoshi Ikemura	福岡大学医学部整形外科	Transtrochanteric Curved Varus Osteotomy for the Treatment of Osteonecrosis of the Femoral Head	OsteonecrosisFirst Online: 18 January 2025 pp 435-442	Original Article
93	Uesugi Y, Sakai T, Ando W, et al.	金城学院大学	A Five-Year Longitudinal Assessment of Quality of Life in Patients Who Have Osteonecrosis of the Femoral Head Undergoing Total Hip Arthroplasty. A Multicenter Study.	J Arthroplasty 2025 Jan 15:S0883-5403(25)00017-8.	Original Article
94	Ogasawara M, Tanaka H, Tsukano H, et al.	福岡大学病院	Incidence and Risk Factors of Ulnar Neuropathy After the Surgical Treatment of Distal Humeral Fractures	Cureus 2025, 17(3):e81506. eCollection 2025 Mar.	Original Article

小計13件

95	Matsunaga K, Miyake S, Izaki T, et al.	福岡大学病院	Serial Magnetic Resonance Arthrography for a Midsubstance Capsular Tear in a Patient With Traumatic Anterior Shoulder Instability	Cureus2024 Apr 29;16(4):e59247.	Case report
96	Yoshimura F, Doi K, Kinoshita K, et al.	福岡大学病院	Corticosteroid-associated osteonecrosis of the femoral head in an 87-year-old patient following treatment for COVID-19-associated pneumonia: A case report.	Skeletal Radiol.2024 Dec;53(12):2741-2744.	Case report
97	Yamasaki Y, Maeyama A, Takeuchi M, et al.	福岡大学病院	Bilateral Snapping Knee in a Patient with Rheumatoid Arthritis Accompanied by Sjögren's Syndrome – A Case Report	Journal of Orthopaedic Case Reports 2024 Dec:14(12): 18-21	Case report
98	Koga M, Maeyama A, Ishimatsu T, et al.	福岡大学病院	A case of high tibial osteotomy in a patient with psoriatic arthritis	Mod Rheumatol Case Rep.2025 Jan 23:rxaf007.	Case report
99	荒巻ちひろ、山口和記、今福信一	皮膚科	活性型ビタミンD3外用薬により高カルシウム血症を生じた尋常性乾癬の1例	西日本皮膚科86(2):136-142, 2024 4月	Case report
100	吉村麻衣、大賀保範、今福信一	皮膚科	好酸球性心筋炎を併発した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例	西日本皮膚科86(3):223-228, 2024 6月	Case report
101	高野彩加、佐藤絵美、筒井ゆき、その他	皮膚科	再発性多発軟骨炎と大球性貧血を来し、遺伝子検査にて診断し得たVEXAS症候群の1例	西日本皮膚科86(3):243-246, 2024 6月	Case report
102	荒巻ちひろ、伊藤宏太郎、今福信一	皮膚科	乳児時から長期間観察し、COVID-19感染後に使用したセクキヌマブで安定した小児乾癬の1例	西日本皮膚科86(4):373-379, 2024 8月	Case report
103	大久保和貴子、柴山慶継、古賀佳織、その他	皮膚科	未治療のアトピー性皮膚炎患者に発症した感染性心内膜炎の1例	西日本皮膚科86(4):395-400, 2024 8月	Case report
104	佐藤圭亮	放射線科	6) 胆道系・膵MRI Q50: 結石症をどのように撮像・読影しますか?	MRI一問一答 撮像法選択と読影に“必ず”役立つ基礎知識 (編)平井俊範・工藤與亮・堀正明,p.250-251 株式会社 Gakken 2024.07	Others
105	高山幸久	放射線科	5) 肝MRI Q43: MRIで肝線維化はわかるのでしょうか?	MRI一問一答 撮像法選択と読影に“必ず”役立つ基礎知識 (編)平井俊範・工藤與亮・堀正明,p.233-235 株式会社 Gakken 2024.07	Others

小計13件

106	高山幸久	放射線科	6) 胆道系・膵MRI Q53: 胆嚢癌をどのように撮像・読影しますか?	MRI一問一答 撮像法選択と読影に“必ず”役立つ基礎知識 (編) 平井俊範・工藤與亮・堀正明, p.256-257 株式会社 Gakken 2024.07	Others
107	藤光律子、吉満研吾	放射線科	特集／日常診療での超音波検査のおさえどころ: 超音波検査の要点と盲点	臨牀と研究, 2024.07	Original Article
108	高山幸久、村山僚、田中慎二、他	放射線科	画像診断と病理: MASLD/MASHに対するPDFFの診断能—NAFLD/NASHのMRIによる診断能に関する知見を基に	肝臓クリニカルアップデート10(2): 207-210. 2024.10	Original Article
109	中原孝、村山僚、佐藤圭亮、他	放射線科	高度嚢胞変性と急速増大を呈し破裂に至った胃GISTの1例	臨床放射線69(6): 867-872. 2024.11	Case report
110	高山幸久、村山僚、田中慎二、他	放射線科	【肝胆膵のcommon diseaseにみる非典型的な画像所見】限局性結節性過形成	画像診断, 44(12): 1154-1162. 2024.09	Original Article
111	眞鍋友輔、佐藤圭亮、高山幸久、他	放射線科	Desmoplastic small round cell tumorの2例 CT/MRI所見	臨床放射線, 69(3): 387-392. 2024.05	Case report
112	高山幸久、村山僚、田中慎二、他	放射線科	【読影のお作法-連続画像スライスで追う腹骨盤部急性疾患の診断-】急性疾患: 胆管・胆嚢(急性胆管炎、irAE硬化性胆管炎、急性胆嚢炎、胆嚢十二指腸瘻、胆石イレウス)	臨床画像, 41(2): 136-146. 2025.02	Original Article
113	小川正浩	福岡大学病院	心室期外収縮の検査と治療	日本臨床検査医学会誌. 2024 May; 72(5): 403-40	Review
114	小川正浩	福岡大学病院	心室期外収縮/非持続性心室頻拍	日本臨床 増刊号 不整脈診療学. 2025 Jan; 83: 336-34	Others
115	白石武史、宮原聰、早稲田龍一、他	呼吸器・乳腺・小児外科 (臓器移植医療センター)	肺外科における再手術～残肺全摘術における血管処理～	肺癌. 64(3): 227-228. 2024 6月	Original Article
116	小野周子、田中益美、吉永康照他	呼吸器・乳腺・小児外科	乳房血管肉腫の2例 - 原発性と続発性の経験 -	乳癌の臨床. 39/5; 435-443. 2024 10月	Case report
117	早稲田龍一、佐藤寿彦	呼吸器・乳腺・小児外科	福岡大学における働き方改革時代に対応した呼吸器外科手術教育-新世代の模擬臓器が可能にするサステナブルな手術修練-	胸部外科. 77(7): 546-549. 2024 7月	Review

小計13件

総計117件

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

## (1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の主な内容</li> <li>福岡大学人を対象とする研究倫理審査委員会標準業務手順書</li> <li>福岡大学人を対象とする研究倫理審査委員会の審査事項、迅速審査事項及び報告事項</li> </ul>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に  
「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

## (2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>規定の主な内容</li> <li>福岡大学 利益相反に関する規程</li> <li>福岡大学 臨床研究に係る利益相反ポリシー</li> <li>福岡大学 臨床研究に係る利益相反マネジメント委員会に関する内規</li> </ul>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

## (3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容</li> <li>人を対象とする生命科学・医学研究に関する倫理指針について</li> <li>利益相反 (COI) について</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

内科専攻医研修プログラムに基づく研修  
消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
呼吸器専門研修プログラムに基づく研修  
精神科専門医 研修プログラム  
小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
福岡大学形成外科専門研修プログラムに基づく研修  
脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
心臓血管外科後期臨床研修プログラム  
皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
腎泌尿器外科 専門研修施設群専門研修プログラムに基づく研修  
産婦人科後期臨床プログラムに基づく研修  
眼科研修プログラムに基づく研修  
福大病院耳鼻咽喉科専門研修プログラムに基づく研修  
放射線科領域モデル専門研修プログラム 2024 年度  
腫瘍・血液・感染症内科後期臨床研究プログラムに基づく研修  
内科専門医研修プログラムに基づく研修  
腎臓・膠原病内科後期臨床研修プログラムに基づく研究  
内科後期臨床研究プログラムに基づく研究  
脳神経内科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
消化器外科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
麻酔科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
歯科口腔外科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
救命救急センター 後期臨床研修プログラムに基づく研修  
小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修  
日本プライマリ・ケア連合学会 後期研修プログラム  
日本専門医機構 総合診療専門医プログラム  
病理専門研修プログラムに基づく研修

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	164.3 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
三浦 伸一郎	循環器内科	教授	31年	
平井 郁仁	消化器内科 内視鏡部	診療部長	33年	
藤田 昌樹	呼吸器内科	診療部長	38年	
堀 輝	精神神経科	診療部長	22年	
永光 信一郎	小児科	診療部長	36年	
佐藤 寿彦	呼吸器・乳腺内分泌・小	診療部長	27年	

	児外科			
山本 卓明	整形外科	主任教授	35年	
高木 誠司	形成外科	診療部長	30年	
安部 洋	脳神経外科	診療部長	29年	
和田 秀一	心臓血管外科	診療部長	34年	
今福 信一	皮膚科	診療部長	33年	
羽賀 宣博	腎泌尿器外科	診療部長	28年	
四元 房典	産婦人科	診療部長	22年	
内尾 英一	眼科	診療部長	30年	
坂田 俊文	耳鼻咽喉科	診療部長	39年	
高山 幸久	放射線科	診療部長	26年	
高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科	診療部長	38年	
川浪 大治	内分泌・糖尿病内科	診療部長	27年	
升谷 耕介	腎臓・膠原病内科	診療部長	21年	
馬場 康彦	脳神経内科	診療部長	27年	
長谷川 傑	消化器外科	診療部長	21年	
秋吉 浩三郎	麻酔科	診療部長	29年	
近藤 誠二	歯科口腔外科	診療部長	33年	
仲村 佳彦	救命救急センター	センター長	21年	
鍋島 茂樹	総合診療科	診療部長	35年	
濱崎 慎	病理診断科	診療部長	29年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

患者急変時の対応（救急蘇生法・AED演習）

・研修の期間・実施回数

各研修 1時間、27回/年 実施

・研修の参加人数

312名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

多職種合同オリエンテーション・接遇マナー研修

・研修の期間・実施回数

令和6年度4月実施

・研修の参加人数

約100名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 三浦 伸一郎
管理担当者氏名	庶務課長 田中 智 医療情報部事務室長 阿部 嘉礼 薬剤部長 神村 英利 医事課長 西 良子 放射線部技師長 上野 登喜生

診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	保管場所	管理方法
	病院日誌	庶務課	当院の診療記録は一患者一番号で管理を行っており、入院診療記録についてはターミナルデジット方式、外来診療記録については患者番号順で保管している。平成21年8月5日から電子カルテシステムを導入しているが、同意書や入院診療計画書、退院サマリなどの紙保管が必要なものについては、紙運用時と同様に保管しており、令和4年3月のタイムスタンプ導入後は全て電子カルテ上に保存している。
	各科診療日誌	各診療科	なお、入院・外来診療記録共に、最終来院日から10年経過したものは廃棄し、タイムスタンプ取込み後の紙については、6か月保管後廃棄している。
	処方せん	薬剤部	
	手術記録	手術部	
	看護記録	看護部	
	検査所見記録	臨床検査・輸血部	
	エックス線写真	放射線部（電子保管）	
	紹介状	地域医療連携センター	
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部	また、個人情報を厳格に管理するため、平成29年6月1日に「診療記録取扱内規」を改正し、紙の診療記録の貸出を禁止し、閲覧にて対応している。
			処方箋について 処方箋（紙媒体）として3年間保管
病院の管理及び運営に関する諸記録	の規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課 先進医療実績報告（帳簿管理）
		高度の医療の提供の実績	庶務課 紙媒体で帳簿管理、またデータ保管
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	庶務課
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実	地域医療連携センター

規則第一項に 掲げる第一項条の十一第一項に	績 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	医療安全管理部にて一括管理
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部 医療安全管理部・感染制御部にて一括管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 医療安全管理部 庶務課 医療安全管理部・感染制御部・庶務課にて一括管理
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染制御部 医療安全管理部・感染制御部にて一括管理
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のために必要な未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	医療安全管理部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター 臨床工学センターにて一括管理
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター 以下の項目、上記に同じ
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	臨床工学センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録  規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	医療安全管理部・感染制御部にて一括管理
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部	
	医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部	
	診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部	
	医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	
	高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部	
	未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部	
	監査委員会の設置状況	医療安全管理部	
	入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
	他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	
	医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部	
	職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部	
	管理者が有する権限に関する状況	庶務課	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	庶務課	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	庶務課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	事務長 川野 耕	
閲覧担当者氏名	庶務課長 田中 智 医事課長 西 良子 医療情報部事務室長 阿部 嘉礼	
閲覧の求めに応じる場所	・病院西別館 3階B会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧を希望の際には、庶務課へ申請を行い、閲覧室である病院西別館3階B会議室にて閲覧を行う。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲 覧 者 別	医師 延 0 件
	歯科医師 延 0 件
	国 延 0 件
	地方公共団体 延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>指針の主な内容 :</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項</li> <li>3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>設置の有無 ( 有・無 )</b></li> <li>・ <b>開催状況 :</b>年 12 回</li> <li>・ <b>活動の主な内容 :</b>医療安全管理委員会 (1回/月)</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 36 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>研修の内容 (すべて) :</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全院内教育 6 回</li> <li>2. CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン 3 回</li> <li>3. 心肺蘇生法・AED講習 27回</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>医療機関内における事故報告等の整備 ( 有・無 )</b></li> <li>・ <b>その他の改善の方策の主な内容 :</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故・合併症・重要インシデント事例の検討・医療安全教育の企画。</li> <li>2. 医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティマネジメント会を通じて伝達している。また、全職員に電子カルテ掲示板で会議資料を公開し、安全管理・危機管理意識の向上に努めている。</li> <li>3. 医療安全管理責任者および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。</li> <li>4. 病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。</li> <li>5. 「安全管理レポート」(毎月)と「医療安全情報」(適時)を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。</li> <li>6. 医療安全管理院内ラウンドを月1回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針の主な内容 :</li> </ul> <p>1. 院内感染対策に関する基本的考え方      2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項      3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針      4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針      5. 院内感染発生時の対応      6. 感染対策の閲覧に関する基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の主な内容 :</li> </ul> <p>・感染対策委員会（1回／月）      ・感染制御部会議（1回／月）      ・セーフティマネジャー会（1回／月）      ・看護部部内感染対策委員会（1回／月）</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の内容（すべて） :</li> </ul> <p>・医療安全院内教育 5回</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院における発生状況の報告等の整備</li> <li>・その他の改善のための方策の主な内容 :</li> </ul> <p>1. 「院内感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備し、遵守状況を院内各部署のラウンドで確認している。      2. 1回／週、ICT（ICD、感染管理認定看護師（CNIC）、臨床検査技師、薬剤師の4職種）が院内各部署のラウンドを行い、微生物ラウンド、環境ラウンドを実施している。微生物ラウンドに際して、資料（細菌検査室で全部署直近2週間分のラウンド対象患者一覧表）を毎回準備している。      3. 感染対策支援システム（電子カルテ端末上）で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多耐性菌検出患者等の報告を確認し、部署の感染対策について情報共有している。また、毎週1回以上、ICTミーティングを行っている。      4. 院内感染を疑う場合には適宜、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。      5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。      6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、適宜介入し、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催している。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して電子カルテ端末上で通知し、診療部長会、感染対策委員会、セーフティマネジャー会を通じて感染対策についての周知徹底を図っている。</p>	( 有・無 )

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 17 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○報道事例から学ぶ医薬品の安全管理</li> <li>○注意すべき医薬品の取扱いについて</li> <li>○医療安全とリスクマネジメント</li> <li>○要注意医薬品</li> <li>○医薬品の安全管理</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の作成 ( 有・無 )</li> <li>手順書の内訳に基づく業務の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医薬品の管理 : 各部署で手順書業務確認表を用いて使用期限や管理状況などを確認、月単位で医薬品安全管理責任者が確認 麻薬、覚醒剤原料は業務開始時に理論在庫数と実在庫数が一致するかを確認</li> <li>○患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 : 注射薬派出システムおよび調剤支援システムによるバーコード認証の導入 特にリスクの高い医薬品の調剤時は薬歴、病名を確認し、処方内容を検討</li> <li>○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 : 薬剤管理指導業務の推進 病棟薬剤業務の推進 処方薬の管理方法を看護師と協議</li> <li>○医薬品情報の収集・提供 : 医薬品情報室による情報収集と発信、副作用報告の一元管理 適応外、禁忌などの処方に係る確認及び必要な指導</li> <li>○他施設との連携 : がん化学療法レジメンの公開 持参薬の確認および退院時指導の推進、病診薬連携の推進 薬剤情報ネットワーク (VPCS) の活用</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li> <li>未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :</li> <li>その他の改善の方策の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○錠剤などの取り間違いを防止するため、ピッキングサポート、医薬品在庫管理システム (McHIL) を導入した。</li> <li>○特定生物由来製品の製造番号を正確に管理するため、特定生物由来製品管理システム (LODMAN) を導入し、使用している。</li> <li>○医薬品関連インシデントの共有、医薬品安全管理に関する研修の実施</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 25 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：輸液、シリンジポンプの研修を新人医師、看護師を対象に医療安全管理部と共同し実施している。 年2回、中途採用の医師を対象に医療機器についてのセミナーを実施している。 医療機器5項目（血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、除細動器）の研修を実施。 新規購入機器の使用方法についての研修。</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )</li> <li>機器ごとの保守点検の主な内容：血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、生体情報モニタ、麻酔器、他全36項目の保守点検を院内点検とメーカー点検として計画し実施している。</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 ) 血液浄化装置の血液量モニタの自主回収に伴い関係部署への周知と機器の交換を行なった。</li> <li>未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：特になし</li> <li>その他の改善の方策の主な内容：医療機器のインシデント情報を医療安全委員会で情報共有し、各部署に対策内容を、セーフティーマネイジャーカーで報告している。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

## 規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・責任者の資格（医師・歯科医師）</li><li>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li></ul>	
<p>医療安全管理責任者は以下のように医療安全管理部門等を統括している。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 病院長と連携し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の管理・指導を行っている。</li><li>2. 医師・薬剤師・看護師の医療安全専従者（医療安全管理責任者）の業務の管理指導を行っている。</li><li>3. 専門分野責任者と連携し、各部門の医療安全を推進・指導している。</li><li>4. 医療事故発生時は、事故調査委員会、事故対策委員会における病院長の支援を行い、医療安全上の課題への対策について職員への周知、指導を行っている。</li></ol>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（10名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</li></ul>	
○薬剤部薬品情報室に終日担当者を配置して情報の整理・周知を一元化	
<ul style="list-style-type: none"><li>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</li></ul>	
○医療安全管理部で申請を受け付け、医療倫理委員会に意見を求め、導入の可否を決定	
○未承認薬使用症例の副作用情報等を収集し医療安全管理委員会へ報告	
○適応外・禁忌薬使用について、調剤支援システムを用いて抽出	
<ul style="list-style-type: none"><li>・担当者の指名の有無（有・無）</li><li>・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部，職種 薬剤師)</li></ul>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有・無）	
<ul style="list-style-type: none"><li>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</li><li>・毎月診療科・部署に対してインフォームドコンセント記録を基に、説明日時・場所、同席者（医療者・患者の家族）、患者・家族の反応等が記載されているか等の事項について監査を行っている。不備が認められる場合はインフォームドコンセント委員会から部署に改善指導を行っている。</li></ul>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
① 退院カルテのチェック	
<p>退院後 14 日以内に、病棟で「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」に沿って、退院カルテの紙保存分と電子カルテ作成分の量的監査を行い、入院カルテ庫へ提出する。</p> <p>入院カルテ庫では病棟でチェックされた「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」を使用してダブルチェックを行い、不備があれば確認を依頼している。また、診療情報管理士が病歴管理システム入力時にも監査を行っており、退院サマリや手術記録などに不備があれば確認・訂正を依頼している。</p>	
② 入院診療計画書	
<p>毎日、入院後 6 日目で入院診療計画書が電子カルテ上未提供の患者、または入院中で記載内容に不備がある患者について「入院診療計画書（6 日目作成状況一覧）」を作成し、対象病棟へ配布している。また、翌日（入院後 7 日目）は前日配布したリストを基に再度チェックを行い、未提供の患者については診療情報管理士から病棟師長へ確認の連絡をしている。</p>	
③ 委譲者オーダ・研修医カルテ未承認督促	
<p>前週の金曜日までの未承認を抽出し、週 1 回メールにて督促。前月以前の未承認が残っている医師を最優先で督促を行っている。</p>	
④ カルテ自主点検	
<p>毎月 1 回医師によるカルテ自主点検を行っており、他科と自科のカルテ入・外各 2 名分を「カルテ記載点検リスト」に基づき点検している。診療情報管理士も同じリストを使用し、評価後にフィードバックを行っている。</p>	
⑤ 診療情報管理士によるカルテ監査	
<p>毎日、外来と入院中や退院翌日の患者を数名抽出し、医師の記載内容やインフォームドコンセント記録など「カルテ監査チェックリスト」に基づき監査を行い、医師にフィードバックしており、質的監査の向上に取り組んでいる。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属職員：専従（5）名、専任（4）名、兼任（5）名</li> <li>うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名</li> <li>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名</li> <li>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</li> </ul> <p>（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の主な内容：</li> </ul>	

医療安全管理部は、医療の安全に必要な指導、安全対策の推進、患者の相談に関する業務を行う。

1. 医療法施行規則に基づく業務

- ア. 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。
- イ. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分なされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
- ウ. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
- エ. 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
- オ. 医療安全に係る連絡調整に関すること。
- カ. 高難度新規医療技術導入及び未承認新規医薬品等の使用の適否を決定する担当部門としての役割を担う。
- キ. その他医療安全対策の推進に関すること。

2. 医療安全管理委員会で決定した方針に基づく業務

- ア. 医療安全カンファレンスで用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全カンファレンスの庶務に関すること。
  - イ. 医療安全管理部小委員会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全管理部小委員会の庶務に関すること。
  - ウ. セーフティマネジヤー会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他セーフティマネジヤー会の庶務に関すること。
  - エ. 事例検討会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他事例検討会の庶務に関すること。
  - オ. 患者および家族からのご意見・ご要望相談（医療紛争を除く）の対応に関すること。
  - カ. 相談内容に応じた関係部署及び関係機関との連絡調整に関すること。
  - キ. その他医療安全管理部長が必要と認めた業務に関すること
- ・H28年4月から毎月手術時の血栓予防策実施状況、インフォームドコンセントの実施状況、輸血時のPDA認証状況等についてモニタリングを行い、診療状況の把握に努めている。
  - ・院内ラウンドを毎月実施し、職員の医療安全に関する意識を把握し、意識向上のための方策を検討している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・）
- ・活動の主な内容：
  1. 診療科の長から高難度新規医療技術の提供の適否について申請を受理したときは、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、

実施を認める条件等について意見を求める。

2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等を決定し、申請を行った診療科の長に対し、その結果を適否結果通知書により通知する。
3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認められるときは、診療録等の記載内容を確認する。
4. 高難度新規医療技術の提供が適正な手続きに基づいていたかについて、医療提供者の遵守状況の確認を行う。
5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び医療提供者の遵守状況について確認したときは、その内容を病院長に報告する。
6. 高難度新規医療技術提供の評価に関する資料、議事録及び遵守状況確認記録は確認の日から5年間保存する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・）

#### ⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・）

##### ・活動の主な内容：

1. 担当部門の長は、診療部長から未承認新規医薬品等の使用の申請があったときは、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対し、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。
2. 担当部門の長は、委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請のあった診療部長に対しその結果を通知する。
3. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認める場合には診療録の記載内容を確認する。
4. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかについて、従業者の遵守状況の確認を行う。
5. 未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定した場合及び従業者の遵守状況について確認した場合は、その内容を病院長に報告する。
6. 未承認新規医薬品等の評価に関する審査資料、議事録及び遵守状況確認記録は、確認の日から5年間保存しなければならない。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 338 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 77 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

診療科に対して、全死亡事例について「死亡・死産事例報告書」の医療安全管理部への提出を義務付けている。また、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したときは、特異事例として当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関して速やかな報告を求めている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名： 国立循環器病研究センター、関西医科大学附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名： 国立循環器病研究センター、関西医科大学附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

訪問側の所見及び受入れ側の改善策を記載した相互ラウンド実施報告書を作成し、相互に内容を確認している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

当該部署及び医療安全管理部で対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

別紙参照

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

- ・特定機能病院管理者研修
- ・日本病院会医療安全管理者養成講習会（アドバンスドコース）
- ・国公私立大学附属病院医療安全セミナー
- ・医薬品安全管理者等講習会

（注）前年度の実績を記載すること

⑯医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のため講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構「病院機能評価(3rdG; Ver. 3.0)

令和6年9月24日～26日 受審

- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

福岡大学病院ホームページで公表

- ・評価を踏まえ講じた措置

指摘事項の改善

（注）記載時点の状況を記載すること

## 2024年度 医療安全教育

予定日 On Demand 視聴期間	時間	対象 定員	単位	テーマ予定	場所
第1回 4月25日(木) ～5月15日(水)	30分 30分	全職員	安全 感染	「医療安全2024」 講師:秋吉 浩三郎(医療安全管理部部長)  「感染制御2024」 講師:戸川 温(感染制御部長)	On Demand
第2回 5月15日(水) ～5月29日(水)	50分	全職員	安全	「医療安全の倫理的側面」 講師:今泉 聰(生命医療倫理学)  「診療用放射線の安全利用のための研修」 講師:高山 幸久(医療放射線安全管理責任者) * 放射線診療従事者受講必須研修	On Demand
第3回 6月25日(火) ～7月8日(月)	60分	全職員	安全	「医薬品の安全管理」 講師:今村 健(医療安全管理部・医薬品安全管理責任者)  「基本的安全対策～患者誤認・転倒転落防止～」 講師:押川 麻美(医療安全管理部)	On Demand
第4回 7月4日(木) 講演 7月10日(水) ～7月23日(火) On Demand	17:00～18:00	全職員	安全	「講師招聘講演」 <b>日本専門医機構共通講習</b> 講師:後 信 先生(九州大学病院医療安全管理部部長)	メディカル ホール On Demand
第5回 8月6日(火) ～8月19日(月)	30分	全職員	感染	「感染対策への取り組み」 講師:橋本 丈代(感染対策担当管理者)	On Demand
第6回 10月22日(火) 講演 10月29日(火) ～11月11日(月) On Demand	17:00～18:00	全職員	感染	「講師招聘講演」 <b>日本専門医機構共通講習</b> 講師:川村 英樹 先生(鹿児島大学病院 感染制御部)	メディカル ホール On Demand
第7回 11月12日(火) ～11月25日(月)	30分	全職員	安全	「患者の権利・義務について」 講師:村上 久美子(福岡大学 人文学部) 中村 伸理子(医療安全管理部)	On Demand
第8回 12月3日(火) ～12月16日(月)	30分	全職員	感染	「抗菌薬適正使用への取り組み①」 講師:戸川 温(感染制御部長)	On Demand
第9回 1月8日(水) ～1月21日(火)	30分	全職員	安全	「RRS症例・活動報告」 講師:医療安全管理部	On Demand
第10回 2月3日(月) ～2月14日(金)	30分	全職員	感染	「抗菌薬適正使用への取り組み②」 講師:戸川 温(感染制御部長)	On Demand
2月3日(月)～2月14日(金)	全職員	第1回～第9回 医療安全教育On Demand視聴			

## 規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

### 管理者に必要な資質及び能力に関する基準

#### ・ 基準の主な内容

福岡大学病院長選考規程（平成31年1月制定、4月施行）

福岡大学病院長候補者選考会議規程（平成31年1月制定、4月施行）

福岡大学病院長候補者選考実施細則（平成31年1月制定、4月施行）

福岡大学病院長に求められる資質・能力について（選考基準）

医療法第十六条の三第1項各号に掲げる事項の実施その他の特定機能病院の管理及び運営に関する業務の遂行に関し必要な能力及び経験を有する者。

#### ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（・無）

#### ・ 公表の方法

福岡大学病院公式HPにて公表を行い、公募している。

## 規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

### 前年度における管理者の選考の実施の有無

有・無

#### ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無）

#### ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）

#### ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）

#### ・ 公表の方法

福岡大学病院公式HPにて公表

### 管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
	別紙参照			有・無
				有・無
				有・無

## 福岡大学病院長候補者選考会議 委員名簿

職名	氏名	選定理由
福岡大学副学長	吉 満 研 吾	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第1号に基づき学長が指名した者
福岡大学医学部長	小 玉 正 太	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第2号に基づく役職指定
福岡大学法学部長	北 坂 尚 洋	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第3号に基づき学長が指名した文系の学部長
福岡大学工学部長	辰 巳 浩	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第3号に基づき学長が指名した理系の学部長
福岡大学大学院医学研究科長	高 松 泰	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第4号に基づく役職指定
福岡大学病院長	三 浦 伸 一 郎	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第5号に基づく役職指定
福岡大学病院事務長	川 野 耕	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第6号に基づく役職指定
福岡大学病院看護部長	甲 斐 純 美	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第7号に基づく役職指定
福岡大学病院 麻酔科診療部長	秋 吉 浩 三 郎	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第8号に基づき診療部長会構成員のうちから互選により選出された教授
福岡大学病院 消化器外科診療部長	長 谷 川 傑	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第8号に基づき診療部長会構成員のうちから互選により選出された教授
福岡大学病院 心臓血管外科診療部長	和 田 秀 一	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第8号に基づき診療部長会構成員のうちから互選により選出された教授
福岡市副市長	荒 瀬 泰 子	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第9号に基づき学長が委嘱する学外有識者（保健・医療・福祉全般に豊富な知見を有している）
九州大学病院長	中 村 雅 史	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第9号に基づき学長が委嘱する学外有識者（特定機能病院の病院長として医学・医療安全について豊富な経験等を有している）
久留米大学病院長	野 村 政 壽	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第9号に基づき学長が委嘱する学外有識者（特定機能病院の病院長として医学・医療安全について豊富な経験等を有している）

任期：令和7年7月1日～令和7年11月30日

## 規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<p>・合議体の主要な審議内容 福岡大学病院診療部長会 (1) 病院の診療、教育及び研究に関する事項 (2) 病院運営に関する事項 (3) その他病院長が必要と認めた事項</p>	
<p>・審議の概要の従業者への周知状況 医局等、部署単位で所属長から回覧等により周知されている。</p>	
<p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法</p>	
<p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</p>	

### 合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
	別紙参照		

診療部長会名簿

氏名	委員長	職種	役職	備考
三浦 伸一郎	○	医師	病院長	
長谷川 傑		医師	副病院長	
平井 郁仁		医師	副病院長	
秋吉 浩三郎		医師	副病院長	
甲斐 純美		看護師	副病院長(看護部長)	
川野 耕		事務職員	事務長	
高松 泰		医師	腫瘍・血液・感染症内科部長	
川浪 大治		医師	内分泌・糖尿病内科部長	
杉原 充		医師	循環器内科部長	
平井 郁仁		医師	消化器内科部長	兼務
藤田 昌樹		医師	呼吸器内科部長	
升谷 耕介		医師	腎臓・膠原病内科部長	
馬場 康彦		医師	脳神経内科部長	
堀 輝		医師	精神神経科部長	
永光 信一郎		医師	小児科部長	
長谷川 傑		医師	消化器外科部長	兼務
佐藤 寿彦		医師	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科部長	
前山 彰		医師	整形外科部長	
高木 誠司		医師	形成外科部長	
安部 洋		医師	脳神経外科部長	
和田 秀一		医師	心臓血管外科部長	
今福 信一		医師	皮膚科部長	
羽賀 宣博		医師	腎泌尿器外科部長	
四元 房典		医師	産婦人科部長	
内尾 英一		医師	眼科部長	
坂田 俊文		医師	耳鼻咽喉科部長	
高山 幸久		医師	放射線科部長	
秋吉 浩三郎		医師	麻酔科部長	兼務
近藤 誠二		歯科医師	歯科口腔外科部長	
鍋島 茂樹		医師	総合診療科部長	
濱崎 慎		医師	病理部長	
小川 正浩		医師	臨床検査・輸血部長	
平井 郁仁		医師	内視鏡部長	兼務
高山 幸久		医師	放射線部第一部長	兼務
三浦 伸一郎		医師	放射線部第二部長	兼務
秋吉 浩三郎		医師	手術部長	兼務
長谷川 傑		医師	栄養部長	兼務
鎌田 聰		医師	リハビリテーション部長	
伊藤 建二		医師	血液浄化療法センター長	
吉田 陽一郎		医師	医療情報部長	
仲村 佳彦		医師	救命救急センター長	
四元 房典		医師	総合周産期母子医療センター長	兼務
白石 武史		医師	臓器移植医療センター長	
神村 英利		薬剤師	薬剤部長	
甲斐 純美		看護師	看護部長	兼務

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有  無  ）  
・公表の方法

- 規程の主な内容

福岡大学病院長職務権限規程（令和元年7月制定、8月施行）

- 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

施設長である病院長をトップとし、副病院長と事務長とともに執行部を結成している。  
執行部で執り行われる病院経営戦略会議では事業計画が立案される。  
立案された事業計画は、それぞれの関連委員会にて審議され、その後、病院の最高意思決定機関である診療部長会にて審議の上、承認される。承認された事業は関連部署にて実施される。  
診療科ならびに診療各部、看護部、事務部は、病院の理念を理解し、執行部の運営方針に協力する。

実施の結果はそれぞれの関連委員会委員長によって診療部長会にて報告される。

- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催  
病院経営管理研修会 日本病院会・病院経営管理士共催  
トップマネジメント研修 厚生労働省主催  
日病データ（医療オープンデータ）セミナー一般社団法人日本病院会主催

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	有・無
・監査委員会の開催状況：年 2 回	
・活動の主な内容：	
1. 監査対象期間の医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務実績についてヒアリングと記録を用いて監査する。	
2. 医療安全管理部門の各委員会、カンファレンス、活動内容について当事者からのヒアリングと議事録及び実施記録を用いて監査する。	
3. 必要に応じ、病院長及び開設者に対し、医療に係る安全について是正措置を講ずるよう意見を表明する。	
4. 管理者は業務結果について病院ホームページに公表する。	
・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）	
・委員名簿の公表の有無（有・無）	
・委員の選定理由の公表の有無（有・無）	
・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）	
・公表の方法：	
病院ホームページ	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
横山 晋二	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
早川 晴美	〃		〃	有・無	1
堤 一貴	〃		〃	有・無	1
和田 秀一	福岡大学病院		院内監査委員	有・無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
内部監査室 平成18年4月1日設置
- ・専門部署の設置の有無（・）
- ・内部規程の整備の有無（・）
- ・内部規程の公表の有無（・）
- ・公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に  
係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況								
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況<ul style="list-style-type: none"><li>1. 理事会</li><li>2. 経営協議会</li></ul></li><li>・ 会議体の実施状況 ( 1. 年7回 2. 年17回 )</li><li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 ) ( 1. 年5回 (委任欠席2回) 、 2. 年16回 (委任欠席1回) )</li><li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 ( 有・<input checked="" type="checkbox"/> )</li><li>・ 公表の方法</li></ul>								
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称 :								
会議体の委員名簿								
<table border="1"><thead><tr><th>氏名</th><th>所属</th><th>委員長 (○を付す)</th><th>利害関係</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td>有・無</td></tr></tbody></table>	氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係				有・無
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係					
			有・無					

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（・）
- ・通報件数（年 1件）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（・）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（・）
- ・周知の方法

福岡大学病院安全管理マニュアル、電子カルテインフォメーション、医療安全ポケットマニュアルに記載している。

## (様式第7)

## 専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

## 1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
情報発信の方法、内容等の概要	
<p>近隣の地域に対する情報発信として、各種セミナーを開催している。</p> <p>1つ目は、医療連携の促進・強化を目的として、福岡市医師会及び城南区医師会との共催で行う「福岡大学病院メディカルセミナー」と糸島医療圏の医療関係者を対象とした「糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会」である。これらのセミナーは、各診療科の診療技術や研究内容、病院として取り組んでいる医療体制等について、当院の医師が講演やパネルディスカッションを行うもので年5回開催している。</p> <p>2つ目は、地域の一般市民を対象とした「学んで予防！《福大病院 健康セミナー》」である。このセミナーは、城南区医師会及び早良区医師会、さらには城南区役所、城南保健所、城南区の各自治協議会・各公民館及び早良区役所、早良区保健福祉センター、早良区の各公民館に協力いただき、地域の方が知りたいと思っている「健康や病気の予防」をテーマに、当院の医師と城南区医師会推薦の医師との協同で2ヶ月に1回程度開催しており、各回200～300名の地域住民の参加がある。しかしながら、令和6年度も新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ拡大の収束は予測できないことからYouTube配信で5回開催した。</p> <p>3つ目は、地域がん診療拠点病院として、がん患者やそのご家族、そして一般市民を対象に「福岡大学病院がんセミナー」を開催している。このセミナーは、がん治療の最前線の情報や各種がんの診療・治療・手術等の診療技術に関する事、また、がん治療中の薬物療法や食事療法、治療中の社会生活に関する事など、がんについてあらゆる知識や情報を発信している。令和6年度は公民館や福岡大学病院内で計6回実施した。</p> <p>他にも患者・家族や地域住民向けの広報誌「福大病院パンフレット」を年に1回、「福大病院ニュース」を年4回程度発行している。また、病院公式HPも定期的に更新を行っており、当院の最新情報を発信している。連携医療機関や関連病院などに向けて、病院の執行部や診療科毎の取り組みなど各医師の顔写真入り医師紹介冊子「診療各科・部医師紹介」を令和4年度から配付し、更なる連携を図っている。また、各種セミナーや各診療科などの最新情報をYouTubeやSNSを活用して積極的に発信している。</p>	

## 2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。	
<p>「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科      「消化器センター」→消化器内科、消化器外科      「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、腎泌尿器外科      「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科      「脳神経センター」→脳神経内科、脳神経外科      「小児医療センター」→小児科、小児外科      「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科      「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、形成外科      「もの忘れ外来専門センター」→精神神経科、脳神経内科      「心臓リハビリテーションセンター」→循環器内科、心臓血管外科</p>	

「摂食嚥下センター」→歯科口腔外科、耳鼻咽喉科

「最先端ロボット手術センター」→呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、消化器外科、  
腎泌尿器外科、産婦人科

「臓器移植医療センター」→呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、腎泌尿器外科、腎臓・膠原病内  
科、眼科